

第三十九回 衆議院議事速記録第四號

大正六年六月二十八日(木曜日)午後一時十三分開議

議事日程 第三號 大正六年六月二十八日

午後一時開議

- 第一 臨時國庫證券法案(政府提出) 第一讀會
- 第二 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第三 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第四 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第五 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第六 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第七 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第八 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第九 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十一 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十二 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十三 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十四 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十五 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十六 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十七 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十八 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第十九 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十一 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十二 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十三 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十四 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十五 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十六 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十七 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十八 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
- 第二十九 臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會

第三十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
第三十一 造船獎勵金下付停止ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
第三十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
第三十三 市町村教育費國庫補助ニ關スル建議案(原敬君外七名提出)
第三十四 義務教育費國庫補助ニ關スル建議案(西村丹治郎君外二名提出)
第三十五 治水事業速成ニ關スル建議案(齋藤瑤次君外十名提出)

○議長(大岡育造君) 諸般ノ報告ヲ命ジマス
(書記朗讀)
一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
一大正四年度豫備金支出ノ件
一大正四年度特別會計豫備金支出ノ件
一大正四年度大正三年度臨時事件豫備費支出ノ件
一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
一市町村立小學校費國庫補助法案
提出者 尾崎 行雄君 武富 時敏君
大津 淳一郎君 小山 東助君
野村 嘉六君 小山 松壽君
關 和知君

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)
一去二十日議事ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ
裁判所ノ設立ニ關スル法律案外一件
福井 三郎君 工藤 吉次君
隅田 豐吉君 岩崎 勳君
一宮 房治郎君 戸水 寛人君
高橋 久次郎君 森田 茂君
松岡 勝太郎君 鶴澤 宇八君
秋田 寅之介君 前川 虎造君
東洋殖産株式會社法中改正法律案外一件
小林 源藏君 清 釜太郎君
高橋 本吉君 牧 山耕藏君
陣 軍吉君 中西 六三郎君
加藤 定吉君 小寺 謙吉君
町田 忠治君 齋藤 宇一郎君
田島 達策君 湯淺 凡平君
輕便鐵道補助法中改正法律案外一件
粕谷 義三君 秦 豐助君
南澤 宇忠治君 板東 勘五郎君

百瀬 清治君
阿部 武智雄君
齋藤 隆夫君
岡部 次郎君
大森 森次郎君
渡邊 昭君
中野 寅次郎君
生原 忠右衛門君
小池 仁郎君
上村 耕作君
佐々木 平次郎君
野口 孝治君
兒玉 亮太郎君
則元 由庸君

與村三樹之助君 遠藤 良吉君
久須美東馬君 武市 彰一君
山田 正年君 岡 辰喜君
秋田 清君 伊東 知也君
軍事救護法案
田邊 熊一君 八木 逸郎君
磯部 尙君 石川 又八君
樋口 秀雄君 吉田 中君
軍人恩給法中改正法律案
藤 昌巖君 菅野傳右衛門君
大石 五郎君 神川 長久君
丸山巖峨一郎君 森田 正路君
大森與三郎君 永田吉右衛門君
川村 惇君 平山 岩彦君
飯田 精一君 村松 恆一郎君

一委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ
衆判所ノ設立ニ關スル法律案外一件委員會
委員長 戸水 寛人君 理事 岩崎 宇八君
東洋拓殖株式會社法中改正法律案外一件委員會
委員長 小林 源藏君 理事 高橋 本吉君
輕便鐵道補助法中改正法律案外一件委員會
委員長 粕谷 義三君 理事 湯淺 凡平君
軍事救護法案委員會
委員長 田邊 熊一君 理事 兒玉 亮太郎君
軍人恩給法中改正法律案委員會
委員長 藤 昌巖君 理事 若尾 善助君
委員長 漆 昌巖君 理事 樋口 秀雄君

一委員ノ異動左ノ如シ
軍事救護法案委員柏原文太郎君辭任ニ付其補闕トシテ堀川美哉君ヲ、軍人恩給法中改正法律案委員堀川美哉君辭任ニ付其補闕トシテ柏原文太郎君ヲ、東洋拓殖株式會社法中改正法律案外一件委員小寺謙吉君辭任ニ付其補闕トシテ關和知君ヲ議長ニ於テ就レモ選定セリ

○議長(大岡育造君) 會議ヲ開キマス、御諮リ申スコトガアリマス、本會議日ニ豫算委員會ヲ開キタイト云フ委員長ヨリノ申出ガアリマス、許可シテモ異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(大岡育造君) 御異議ナシモト認メマス、尙ホ本會期ハ短期ノコトデ御坐イマスルカラ、其他ノ委員諸君ヨリ會議中ニ委員會ヲ開キタイト云フ 御望モアルコト、存ジマスガ、議長ヨリ其都度許可シテ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕
○議長(大岡育造君) 御異議が無ケレバ其通り取計ヒマス

○小山松壽君 議長

○議長(大岡育造君) 小山松壽君

○小山松壽君 簡單デアリマスカラ、當席ニ於テ發言ノ御許シヲ願ヒマス

○議長(大岡育造君) 宜シウゴザイマス

○小山松壽君 一昨日議長ヨリ本員ノ質問ニ對シテノ御辯明ガアリマシタ、ツレハ承リマシタ、本員ノ考ヘル所ニ依リマスレバ、速記録ハ議事ヲ構成スルノ要素デアルカ否ヤト云フ問題ニ付キマシテ、若シ要素ナラバ速記録ハ議事ヲ構成スルノ要素デアルカ否併ナガラ然ラズト云フ問題ニ於テ異ナラズレバ、茲ニ疑義ガ生ズルノデアリマスガ故ニ、本員ハ議事ノ實體ト其記録トニ於テ異ナラズ場合ニ方ッテハ、議長ハ院議ニ諮ラレテ之ヲ決セラ

ル、ヤウニ致シタイト云フ希望ヲ述ベテ置キマス

○議長(大岡育造君) 日程第一及第三ハ關聯シタル議案ナルニ依ッテ、一括シテ議題トナスニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(大岡育造君) 第一臨時國庫證券法案、第三臨時國庫證券收入金特別會計法案、第一讀會ヲ開キマス

第一臨時國庫證券法案(政府提出) 第一讀會
臨時國庫證券法案
第一條 政府ハ輸出爲替資金ノ疏通ヲ圖リ又ハ聯合國ニ對スル輸出軍需品代金ノ決済ヲ便ニスル爲運賃資金ノ必要アリト認ムルトキハ五年内ノ期限ヲ以テ臨時國庫證券ヲ發行スルコトヲ得其ノ借換ノ爲必要アルトキ亦同シ
第二條 臨時國庫證券ノ最高發行額ハ二億圓トス但シ借換ノ爲發行スルモノハ此ノ制限ヲ超過スルコトヲ得
第三條 臨時國庫證券ハ割引ノ方法ヲ以テ之ヲ發行スルコトヲ得
前項ノ臨時國庫證券ニ關シテハ大藏省證券條例第四條第二項及第五條以下ノ規定ヲ準用ス
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三臨時國庫證券收入金特別會計法案(政府提出) 第一讀會
臨時國庫證券收入金特別會計法案
第一條 臨時國庫證券ノ發行ニ依ル收入金ノ會計ハ特別トシ一般ノ歳入歳出ト區分セシム
第二條 本會計ノ資金ハ金銀地金及有價證券ヲ以テ之ヲ保有シ其ノ他確實ナル方法ヲ以テ之ヲ運用ス
前項ノ運用ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム
第三條 本會計ハ臨時國庫證券ノ發行ニ依ル收入金、運用利殖金及附屬雜收入ヲ以テ其ノ歳入トシ臨時國庫證券ノ償還金、利子、割引料、附屬諸費及損失金ヲ以テ其ノ歳出トス
第四條 臨時國庫證券ノ償還金、利子、割引料及其ノ發行償還ニ關スル諸費

ノ支出ニ必要ナル金額ハ之ヲ國債整理基金特別會計ニ繰入ルヘシ
第五條 本會計ノ資金ニシテ毎年度内ニ使用セサルモノハ遞次翌年度ヘ繰
越スヘシ
本會計ノ毎年度歳出豫算ニ於ケル支出殘額ハ遞次繰越シ使用スルコトヲ
得

第六條 政府ハ毎年本會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共
ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ
第七條 本會計終結ノ場合ニ於テ剩餘アルトキハ之ヲ一般會計ニ繰入レ不
足アルトキハ之ヲ一般會計ヨリ繰入レ補充スヘシ

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
○國務大臣(勝田主計君) 議長
○議長(大岡育造君) 大藏大臣
○國務大臣(勝田主計君) 第一ダケデアリマスカ
○議長(大岡育造君) 第一第二……
○國務大臣(勝田主計君) 既ニ本議場ニ於テ私ヨリ申述ベテ置キマシタ如クニ、爲
替ノ調節ノ必要上又軍需品代金ノ調達ノ必要上ヨリ致シマシテ、政府ハ民間ト力ヲ協
セテ、此等ノ問題ヲ圓滿ニ解決ヲ致シタイト考ヘテ居リマスカ、此臨時國庫證券ト
云フモノヲ、二億圓ヲ限度ト致シマシテ發行ヲ致シタイト思フノデアリマス、尙ホ此發行
ニ依ッテ得タル所ノ資金ハ、申スマデモナク正貨ヲ保持シ、或ハ外國ノ證券ニ之ヲ放資
スルト云フヤウナ必要ガアリマシテ、此運用上ヨリ起リマスル所ノ損益計算、其他ガ頗ル
複雜ニ互リマスカ、特別會計ヲ設ケマシテ整理ヲ致シタイト云フ希望デゴサイマス、
何卒御審議ノ上御協賛ヲ與ヘラレムコトヲ希望致シマス
○議長(大岡育造君) 右二案ノ審查ヲ一括付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シ
マス

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君 本案委員ハ十八名、議長指名アランコトヲ望ミマス
○議長(大岡育造君) 恆松隆慶君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ
○議長(大岡育造君) 御異議ナシト呼フ者アリ
○議長(大岡育造君) 御異議ナシト認メマス、仍テ恆松君動議ノ如ク決シマシタ
○議長(大岡育造君) 次ノ日程ハ五七ト一括シテ議題トセラレンコトヲ願ヒマス、詰リ前委
員ニ付託シタイト云フ希望ヲ以テ……
○議長(大岡育造君) 御異議ハアリマセヌカ
○議長(大岡育造君) 御異議ナシト呼フ者アリ
○議長(大岡育造君) 御異議ナシト認メマス、仍テ第五第七之ヲ併セテ議題ト致シ
マス

第五 戰時貯金券法案(政府提出)

戰時貯金券法案

第一條 政府ハ日本勸業銀行ヲシテ戰時貯金券ヲ發行セシムルコトヲ得

第一讀會

第二條 戰時貯金券ハ無記名トシ券面金額ヲ五圓トス
第三條 戰時貯金券ハ賣出ノ方法ニ依リ割引ヲ以テ之ヲ發行スルモノトス
割引金額ハ主務大臣之ヲ定ム
第四條 戰時貯金券ハ發行ノ翌年ヨリ十年内ニ毎年二回以上抽籤ヲ以テ之
ヲ償還スヘシ

戰時貯金券ヲ償還スル場合ニハ割増金ヲ附與スルコトヲ得但シ戰時貯金
券一枚ニ對スル割増金額ハ千圓ヲ超過スルコトヲ得ス
第五條 日本勸業銀行ハ戰時貯金券ニ對スル拂込ニ充テシムル爲戰時貯金
券引換證ヲ發行スルコトヲ得

戰時貯金券引換證ハ無記名トシ券面金額ヲ一圓トス
第六條 政府ハ戰時貯金券ヲ發行ヲ廢止セムトスルトキハ豫メ之ヲ告示ス
戰時貯金券ヲ發行ヲ廢止シタル場合ニ於テ戰時貯金券ニ對スル拂込ニ使
用セザリシ戰時貯金券引換證ハ無効トス但シ最終ノ戰時貯金券發行締切
ノ日ヨリ五年ヲ限リ券面金額ヲ以テ郵便貯金ノ預入ニ使用スルコトヲ得
第七條 戰時貯金券ニハ商法第九十九條乃至第二百七條ノ二ノ規定ヲ適
用セス

第八條 戰時貯金券及戰時貯金券引換證ニハ印紙稅ヲ免除ス
第九條 日本勸業銀行ハ戰時貯金券及戰時貯金券引換證ノ發行ニ依ル收入
金ヲ大藏省預金部ニ預入ルヘシ
第十條 戰時貯金券及戰時貯金券引換證ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造
取締法ヲ準用ス
第十一條 民法施行法第五十七條ノ規定ハ戰時貯金券引換證ニ之ヲ適用セ
ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
戰時貯金券ハ戰爭終了後一年ヲ經過シタルトキハ之ヲ發行セス

第七 日本勸業銀行法中改正法律案(政府提出)

日本勸業銀行法中改正法律案 第一讀會
第一條ノ二 日本勸業銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ支店代理店ヲ設置シ又
ハ他ノ銀行ト「コレレスボンド」ヲ締結スルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ支店代理店ノ設置ヲ命スルコトヲ得
第二條中「一千七百五十萬圓」ヲ「三千萬圓」ニ改ム
第五條中「理事三人以上」ヲ「理事六人以上」ニ改ム
第六條中「日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌ス」ヲ「日本勸業銀行ノ業務ヲ分掌シ又
ハ之ニ參與ス」ニ改ム
第九條第二號及第三號ヲ左ノ如ク改ム

第二 國債證券地方債證券、社債券及株券ノ應募、引受又ハ買入
第三 預リ金保護預リ及地金銀ノ買入

同條ニ左ノ一號ヲ加フ

第八 十五年以内ニ於ケル年賦償還又ハ五年以内ニ於ケル定期償還ノ方
法ニ依リ船舶又ハ製造中ノ船舶ヲ抵當トスル貸付
第九條ノ三 日本勸業銀行ハ造船材料、船舶器具、運送貨又ハ貨船料ヲ擔保
トシテ貸付ヲ爲スコトヲ得

第十條 日本興業銀行ハ産業組合又ハ其ノ聯合會ニ對シ擔保ヲ徵セシテ
當座貸又ハ定期貸ヲ爲スコトヲ得
第十四條 債券ヲ「第四章 興業債券」ニ改ム
第十六條ノ二 日本興業銀行ノ債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締
法ヲ準用ス
第二十條 削除

第二十六條 政府ハ日本興業銀行ニ對シ大正六年十月一日ヨリ五年間ヲ限
リ毎年金二十萬圓ヲ毎營業期ニ割當テ補給スヘシ但シ毎營業期ニ於ケル
利益配當カ拂込資本金額ニ對シ年七分ノ割合ヲ超過スルトキハ其ノ超過
額ニ相當スル金額ヲ補給金中ヨリ控除ス
議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

「又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得」ヲ「借入金ヲ爲シ又ハ公債ヲ發行スルコトヲ
得」ニ改ム左ノ二項ヲ加フ
前項ノ借入金及公債ノ額ハ通シテ三千四百萬圓以內トス
本法ニ依ル特別會計資金ノ繰替、借入金又ハ公債ノ整理償還スル爲必要
アル場合ニ於テハ前項ノ制限以外ニ借入金ヲ爲シ又ハ公債ヲ發行スルコ
トヲ得
附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
(國務大臣勝田主計君登壇)

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

議長(大岡育造君) 説明ガアリマス

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
事業公債條例中本法ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢止ス

第十三 朝鮮事業公債法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

朝鮮事業公債法中改正法律案
第二項中「借入金」ヲ「公債」又ハ「借入金」ニ、第二項中「八千四百萬圓」ヲ「九千六百萬圓」ニ改ム

(國務大臣勝田主計君登壇)

○國務大臣(勝田主計君) 電話事業公債ニ付キマシテハ、是亦既ニ申上ケテアル如ク、先ヅ六年度ノ追加預算ニ於テ三百萬圓ヲ計上シ、其以後九千九百五十萬圓ト云フモノ、公債ヲ募集スルニ付、諸君其法律案アリマシテ極メテ簡單ナ案デアリマス、次ノ朝鮮事業公債法中改正法律案ハ御承知ノ如クニ、朝鮮ノ國庫債券三千萬圓ガ本年十一月ニ於キマシテ借換ノ期限ニ達セリマス、然ルニ此事業公債法中ニハ借換ニ關スル所ノ規定ガ御坐イマセヌノデ、ソレデ此規定ヲ設ケマシテ、十一月ニ借換ヲ致スト云フコトヲ實行致シタイト思フデアリマス、其序ヲ以テマシテ朝鮮ノ事業公債ノ發行額ガ從來ハ御承知ノ如ク八千四百萬圓ト云フコトニ極メテアリマス、併シナガラ既ニ御協賛ヲ得テ居ル所ノ年度割ニ依テ此公債ヲ計算致シテ見マスルニ云フト、約其金額デハ千二百萬圓ハカリ不足致スト云フトニナリマス、之ヲ加ヘマシテ即チ八千四百萬圓ヲ九千六百萬圓ニ改正致シタイト云フノガ此案ノ精神デ御坐イマス、ドウカ御審議ノ上御協賛ヲ願ヒタク御坐イマス

○議長(大岡育造君) 唯今ノ一案、恆松君ハ合セテ同時ニ説明ヲ求メラレタデアリマスガ、私ガ諮ツタ結果トシテ併合審議ノコトニ致シマス

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 議題ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ移リマス

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君 本案ハ十八名ノ委員ト致シ議長指名ヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 恆松君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ恆松君動議ノ如ク決シマシタ

○山本悌二郎君 豫算委員ノ諸君ニ申シマス、是カラ委員會ヲ開キマスカラ、直ニ委員會室ニ御參集ヲ乞ヒマス

○議長(大岡育造君) 朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案ヲ議題ト致シマス

第十七、第十九、第二十一ハ同様ノ議案ナルニ依リ一括議題ト爲スニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス

○恆松隆慶君 十五ハ……

○議長(大岡育造君) 十五モ讀ミマシタ、モウ一遍讀ミマス

○恆松隆慶君 十五デハ是ハ次ノ十七ト違ヒマスカラ

○議長(大岡育造君) 別デ御坐イマス

○恆松隆慶君 別デ御坐イマス

○議長(大岡育造君) 朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案……

(恆松隆慶君) 是ハ單獨ニ議題トセラレンコトヲ望ミマスト呼フ

第十五 朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案(政府提出) 第一讀會

朝鮮鐵道用品資金會計法廢止法律案
本會計廢止ノ際現存スル現金ハ朝鮮總督府特別會計ノ歳入ニ繰入ルヘシ

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(大岡育造君) 大藏大臣

(國務大臣勝田主計君登壇)

○國務大臣(勝田主計君) 本案ハ御承知ノ如ク朝鮮ノ鐵道ヲ滿洲鐵道會社ニ依テ經營セシムルノ政府ノ計畫デアリマシテ、斯クナリマスルト唯今議題トナツテ居リマス所ノ法律ガ、自然廢止サレルト云フコトニナリマス、ソレ故ニ此案ヲ提出致シマシタ次第デ御座イマス、ドウカ御協賛アラントラ望ミマス

○議長(大岡育造君) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ニ移リマス

第十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君 本案ハ曩ニ第九ノ日程ガ九名ノ委員ニ附託ニナツテ居リマスガ、其レト同一ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 御異議ナケレバ恆松君動議ノ如ク決シマシタ、更ニ呼ビマス、日程第十七、第十九、第二十一ハ同様ノ議案ナルニ依リ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 異議ナキモト認メマス、一括議題ト致シマス、文部大臣

第十七 東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出

金ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案
時局ニ關シ工科大學ノ擴張ヲ爲スノ費用ニ充ツル爲帝國大學特別會計法第二條ノ金額ノ外大正六年度ニ於テ金二十一萬千七百四十圓ヲ東京帝國大學特別會計ニ、金十二萬二千七百八十八圓ヲ京都帝國大學特別會計ニ、大正七年度以後當分ノ内毎年度各金一萬五千圓以內ヲ東京帝國大學特別會計及京都帝國大學特別會計ニ一般會計ヨリ繰入ルヘシ

第十九 京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律

案(政府提出) 第一讀會
京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案
火災復舊ノ費用ニ充ツル爲帝國大學特別會計法第二條ノ金額ノ外大正六年度ニ於テ金三萬圓ヲ一般會計ヨリ京都帝國大學特別會計ニ繰入ルヘシ

第二十一 學校及圖書館特別會計資金ノ一部ヲ一般會

計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
學校及圖書館特別會計資金ノ一部ヲ一般會計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案
大阪高等工業學校校舍新營ノ費用ニ充ツル爲學校及圖書館特別會計ノ資金

ニ屬スル同校用土地及建物ノ賣却代金中新營費ニ相當スル金額ヲ大正六年度乃至九年度ニ於テ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得

(國務大臣岡田眞平君登壇)

○國務大臣(岡田眞平君) 唯今ノ議題ニナッテ居リマスニ案中ノ第一案ハ、東京帝國大學及京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案御坐イマス、是ハ御承知ノ通り刻下實業界ノ發展ニ伴ヒマシテ、技術員ノ需要ガ甚ダ緊切御坐イマスニ依テ、此要求ニ應ズル爲ニ工科大學ノ定員ヲ増加致シマス爲ニ、政府支出金ノ支出ヲ要スルノ御坐イマス、是ガ爲ニ本案ヲ提出致シマシタ次第御坐イマス、第二案ハ京都帝國大學臨時政府支出金ニ關スル法律案御坐イマス、是ハ先年京都帝國大學ニ於キマシテ、不幸火災ニ罹リマシテ小兒科ノ教室ヲ亡失致シマシタノ御坐イマス、其復舊ノ爲ニ政府ノ支出金ヲ要シマスノデ、本案ヲ提出致シマシタ次第御坐イマス、第三案ハ學校及圖書館特別會計資金ノ一部ヲ一般會計ニ繰入ルル件ニ關スル法律案御坐イマス、是ハ大阪高等工業學校ハ目下其擴張ヲ要スルニモ拘ハラズ、甚ダ狹隘ヲ御坐イマシテ、且ツ校舍腐朽致シタモノガ甚ダ少クアリマセマノデ、改築ヲ要スルノ場合ニ迫リ居リマス、依テ現在ノ校舍及敷地ヲ賣却致シマシテ、他ノ處ニ於テ更ニ校舍ヲ新築シ校地ヲ買入レル爲ニ法律案ヲ提出致シマシタ次第御坐イマス、願クハ御審議ノ上御協賛アラント望ミマス

○議長(大岡育造君) 右三案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君 此三案ノ付託スヘキ委員ハ十八名トシ、議長ノ指名アラント望ミマス

○議長(大岡育造君) 恆松君ノ勸議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 右恆松君勸議ノ如ク決シマシタ、日程第二十三農業倉庫業法案ノ一讀會ヲ開キマス、農商務大臣

第二十三 農業倉庫業法案(政府提出)

第一讀會

農業倉庫業法案

農業倉庫業法

第一條 本法ニ於テ農業倉庫業者トハ農業ヲ營ム者ガ其ノ生産シタル穀物若ハ繭ヲ、又ハ土地ニ付權利ヲ有スル者カ小作料トシテ受ケタル穀物ヲ所有スル場合ニ於テ其ノ者ノ爲ニ本法ニ依リ之ヲ倉庫ニ保管スル者ヲ謂フ

前項ニ規定スル寄託物ニ付所有權ノ移轉アリタルトキト雖農業倉庫業者ハ其ノ寄託物ノ保管期間内ニ限り之ヲ保管スルコトヲ得

農業倉庫業者ハ他ノ農業倉庫業者カ前二項ノ規定ニ依リ寄託ヲ受ケタル物品ヲ保管スルコトヲ得

農業倉庫業者ハ前三項ノ規定ニ依ル保管ニ支障ナキ場合ニ限り業務規程ノ定ムル所ニ依リ前三項ノ規定ニ依ラス物品ノ保管ヲ爲スコトヲ得

第二條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ前條ノ事業ノ外左ノ事業ヲ爲スコトヲ得

- 一 受寄物ノ調製改裝又ハ荷造ヲ爲スコト
- 二 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ仲立ヲ爲スコト
- 三 受寄物ノ運送又ハ販賣ノ取次ヲ爲スコト

四 自己ノ作成シタル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

五 他ノ農業倉庫業者カ擔保トシテ受取リタル農業倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコト

第三條 農業倉庫業者ハ營利ヲ目的トシテ其ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 產業組合、農會、農業ノ發達ヲ目的トスル公益法人並ニ町村及之ニ準スヘキモノニ非サレハ農業倉庫業者タルコトヲ得ス

第五條 產業組合カ農業倉庫業者タルトキハ產業組合法ニ規定スルモノノ外第一條及第二條ニ規定スル事業ヲ目的ト爲スコトヲ得

產業組合ハ組合員ノ爲ニ前項ノ事業ヲ爲スノ外附隨トシテ組合員ニ非サル者ノ爲ニ之ヲ爲スコトヲ得但シ第二條第四號及第五號ノ事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

農業又ハ公益法人カ農業倉庫業者タルトキハ第二條第四號及第五號ノ事業ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 農業倉庫業者タラムトスル者ハ業務規程ヲ具シ行政官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第七條 農業倉庫業者ハ業務規程ノ定ムル所ニ依リ種類及品位ノ同一ナル寄託物ヲ混合シテ保管スルコトヲ得

第八條 農業倉庫業者ノ作成スル預證券及質入證券又ハ倉荷證券ニハ農業倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ要ス

農業倉庫業者ニ非サル者ノ作成スル預證券及質入證券又ハ倉荷證券ニハ農業倉庫證券ナル文字ヲ記載スルコトヲ得ス

第九條 混合保管ノ場合ニ於テハ農業倉庫業者ハ農業倉庫證券ニ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第十條 寄託物ノ保管期間ハ寄託ノ日ヨリ六月以内トス

第十一條 寄託物ノ更新ハ第三項ニ規定スル寄託物ニ付テハ保管期間ヲ更新スルコトヲ得但シ寄託者ハ更新ノ際同條第一項又ハ第三項ニ掲グル者タルコトヲ要シ其ノ期間ハ六月ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 寄託物ノ更新ハ第三項ニ規定スル寄託物ニ付テハ保管期間ヲ更新スルコトヲ得但シ寄託者ハ更新ノ際同條第一項又ハ第三項ニ掲グル者タルコトヲ要シ其ノ期間ハ六月ヲ超ユルコトヲ得ス

第十三條 農業倉庫業者ハ業務規程ヲ變更セムトスルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第十四條 農業倉庫業者ニハ所得稅及營業稅ヲ課セス

第十五條 行政官廳公益上必要ト認ムルトキハ農業倉庫業者ニ對シ其ノ指定スル穀物又ハ繭ノ寄託ヲ受ケ、受寄物ノ検査共ノ他ノ行爲ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第十六條 行政官廳ハ農業倉庫業者ニ對シ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類帳簿又ハ業務執行若ハ財産ノ狀況ヲ検査シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十七條 行政官廳農業倉庫業者ノ業務執行若ハ財産ノ狀況ニ依リ事業ノ

繼續ヲ困難ナリト認ムルトキ、農業倉庫業者ノ行為カ法令若ハ業務規程ニ違反シタルトキ又ハ其ノ行為カ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ事業ノ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第十八條 農業倉庫業者タル法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者本法又ハ本法ニ基キテ爲ス命令又ハ處分ニ違反シタルトキハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス
非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則
本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(國務大臣仲小路廉君登壇)

○國務大臣(仲小路廉君) 本案提出ノ理由ヲ簡單ニ申述ベマス、今日ノ場合ニ商業ノ隆昌ヲ期シマスルコトハ最モ大切デアリマス、殊ニ農村農民ノ事ニ付キマシテハ、此際出來得ルだけノ施設ヲ講ジマスルコトハ、最モ大切ナ時機ト感ズルデアリマス、本員ハ農村及農民ノためニ重要ナル農産物ニ對シマシテ、是ガ保管保存ノ事及米券ノ發行ニ依リマシテ金融ノ道ヲ開キマスル事及販賣分配ニ關スル施設ノためニ、茲ニ全國ニ農業倉庫ヲ普及セシメタイト存ズルデアリマス、此公益ノ爲メニ致ス農業倉庫ノ爲メニハ、政府ニ於キマシテモ相當ノ補助ノ途ヲ立テマシテ、是等ノ機關ノ全ウナルコトヲ期シタイ積リデアリマス、尙ホ是等ノ設備ガ完ウナリマスレバ、直接ニ生産物ニ對シテ生産者ト消費者トノ間ヲ密接ナラシムルコトニナリマス、又各種ノ保存ノ事、販賣ノ事、總テ皆共同ノ實行スルコトニナリマスノデ、從テ自然ニ米價其他ノ物價ヲ調節スル上ニ於テモ必要ト感ジマス、又共同保管、共同施設ニ依テ經濟上ノ施設經營モ全ウナル事ト信ジマス、又之ヲ本期ノ議會ニ提案致シマシタノハ、是等ノ事業ハ主トシテ地方ニ於テ之ヲ主管致スノデアリマス、國庫ハ之ニ對シ相當ノ補助金ヲ支出致スノデアリマスカラ、自然地方廳ニ於キマシテハ、地方ノ豫算ニ計上致シマシテ、地方議會ノ協賛ヲ受クル爲メニモ、此時期ニ於キマシテ大體ノ事ノ極リマスルコトハ、非常ニ便宜ヲ感ズル次第デアリマス、是等ノ理由ニ依リマシテ此案ヲ此期ノ議會ニ提案致シタ次第デアリマス、何卒御審査ノ上御協賛アラント希望致シマス
○議長(大岡育造君) 長峰與一君

(長峰與一君登壇)

○長峰與一君 我邦ニ於テ最モ憂フベキハ、小地主並ニ中地主ガ減退致シマシテ、小作人ト大地主ト現出ニ在ルデアリマス、是ガ原因ハ種々御坐イマセウケレドモ、近時農民保護ト稱スル金融機關、又ハ之ニ類似ノ機關ヲ設置シテ、アル譯デアリマスガ、例ヘバ農工銀行ノ如キモ農家ノ之ヲ利用スル時分ニハ、社會ノ四圍ノ事情、又ハ經濟思想ノ幼稚ナルため、是ガ融通ヲ受ケタル資金ハ將來ノ生産資金ニ用ヒラズシテ、所有ノ土地モ資産モ放散シテ、資産家ハ變ジテ一朝負債ノ多額ナル小作人ノ境遇トナル次第デアリマス、又大地主ハ是等ノ銀行ヲ利用シテ資金ヲ借出シテ、以テ機ヲ見テ土地ノ買収ヲ試ムルノ傾向ガアリマス、折角保護ノ目的ヲ以テ設立サレマシタ所ノモノモ、低級ノ經濟思想ノ幼稚ナル者ノ利用如何ニ依リテハ、却テ惡用セラレマス現今ノ狀態デアリマス、今回ノ農業倉庫モ、農民ハ之ニ依テ資金ヲ融通シ得ル結果、生産資金トナル所ノ部分モ御坐イマセウガ、多クハ享樂ノ金トシテ消費サレル機關ヲ増加シテ、資金ノ極度ノ必要時期ニアラザル時ニ於テ、漫然之ヲ消費シテ、我財產ノ減亡ヲ來ス虞ガアルデアリマス、私ハ持論トシテ農村ノ繁榮ハ希望致シマスガ、却テ當局ノ御親切ハ、是等ノ農民ヲ却テ誤ラシムルノ結果ヲ生ジヤシナイカト云フコトヲ虞レルノ

デアリマス、今回ノ農業法案ニ就テノ附則タル倉庫業法案ノ方ハ、是等ノ弊害ヲ認メナイモノデアリイマセウカ、其邊ノ所ヲ農商務大臣ニ質問致ス譯デアリマス
○議長(大岡育造君) 農商務大臣

(國務大臣仲小路廉君登壇)

○國務大臣(仲小路廉君) 長峰君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、御質問ノ要旨ハ折角農民ノ爲メニ金融ノ途ヲ開イテモ、ツレガ却テ生産上ノ助ケニハナラズシテ、或ハ生産上奢侈贅澤等ノコトニ消費サレルコトハナイカ、斯ウ云フ御質問デアリマス、此點ハ私モ御質問者ト同様ニ誠ニ氣遣ヒテ致スデアリマス、今日マデノ結果ニ依リマシテハ、併ナガラ今日マデノ總テノ施設經營ハ實ハ特殊銀行ニ致シマシテモ、重ニ不動產ヲ擔保トシテノ金融デアリマス、ツレガ爲メニ中以下ノ農業者ハ折角出來タル生産物ニ對シテ、唯其ノモノガ動產物デアルガ爲メニ、都合ノ好イ金融モ付カズシテ、終ニ不動產タル土地田畑ヲ多ク抵當ニ致スモノモ出來テ參ルデアリマス、今日農村農民ノ爲メニハ別シテ中以下ノ小農者ノ爲メニ注意ヲ致サナケレバナラス又時機ト信ズルデアリマス、是等ノ爲メニハ米穀其他或ハ繭ニ致シマシテモ、是等ノモノガ出來得ル限り信用ノ基礎トナリマス、而シテ資金ノ融通ヲ附ケマスルコトハ、農民ノ爲メニ甚大ニ切ノコト、考ヘルデアリマス、ニ使用致スコトガ必要デアリマスカラ、此度ノ農業倉庫法ニ就キマシテモ、是等ノ點ヲ考ヘマシテ、營利ヲ目的ト致シマセヌ所謂公益的ノ農業倉庫ヲ設立致ス考デアリマス、即チ政府ニ於キマシテモ質問者ト同様ノ考ヲ以チマシテ、此折角ノ機關ヲシテ、將來ニ都合好イ結果ヲ擧ゲサシタイコトヲ期スル次第デアリマス
○議長(大岡育造君) 日程第二十四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第二十四 右議案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉
○恆松隆慶君 本案ハ十八名ノ委員、議長指名アラムコトヲ望ミマス
○議長(大岡育造君) 恆松君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ
(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ恆松君動議ノ如ク決シマシタ
○議長(大岡育造君) 日程第二十五、蠶絲業法中改正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス

第二十五 蠶絲業法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

蠶絲業法中改正法律案
第七條中第十一條第二項及第十二條ノ規定ニ依ル特別蠶種ヲ「原蠶種」ニ改

第八條 削除
第九條 蠶種製造者ハ現ニ普通蠶種ノ蠶兒ノ掃立又ハ其ノ飼育ヲ爲ス建物

内ニ於テ蠶種製造用蠶兒ノ掃立ヨリ蠶種ノ製造ヲ終ル迄ノ作業ヲ爲スコトヲ得ス
蠶種製造者ハ現ニ普通蠶種製造用蠶兒ノ飼育ヲ爲ス室内ニ於テ原蠶種製造用蠶兒ノ掃立ヨリ蠶種ノ製造ヲ終ル迄ノ作業ヲ爲スコトヲ得ス
第十條 蠶種製造者原蠶種ヲ製造セムトスル時ハ蠶兒ノ飼育ハ一蛾別ニ之ヲ爲スヘシ但本法ヲ施行セサル地若ハ外國ヨリ移入若ハ輸入シタル蠶種ニシテ一蛾別ト爲スコト能ハサルモノ又ハ主務大臣ノ指定シタル蠶種ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

原蠶種ハ框製又ハ袋製ト爲スヘシ
第十一條 蠶種製造者ハ原蠶種ト爲サントスル蠶種ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ蠶兒繭及母蛾ニ付検査ヲ受クヘシ

蠶種製造者ハ普通蠶種ト爲サントスル蠶種ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ掃立口毎ニ其ノ母蛾ニ付検査ヲ受クヘシ
蠶種製造者ハ前項ノ歩合検査ニ合格セサル蠶種ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ母蛾又ハ卵ニ付検査ヲ受クルコトヲ得但シ第十三條但書ノ期間内ニ検査ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第十二條 蠶種ヲ特別蠶種ヲ「蠶種及第十七條ノ検査ニ合格シタル蠶種ヲ原蠶種又ハ普通蠶種」ニ改ム
第十三條 第十一條ノ下ニ「及第十七條」ヲ加ヘ同條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ第十一條第二項ノ歩合検査ニ合格セサル蠶種ニ付テハ地方長官ノ定ムル期間内ニ同條第三項ノ規定ニ依リ検査ノ請求ナキトキハ其ノ期間ヲ經過シタル後之ヲ燒棄スヘシ
第十四條 但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ第十二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル蠶種及其ノ蠶兒ハ此ノ限ニ在ラス
第十六條 第二項ノ左ノ如ク改メ同條第三項ヲ削ル

學術研究ノ爲ニスル場合ニ於テハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ第十四條及前項ノ規定ニ拘ラス蠶種ノ製造又ハ蠶兒ノ飼育ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法中蠶種製造者ニ關スル規定ノ全部又ハ一部ヲ準用スルコトヲ得

第十七條 本法ヲ施行セサル地又ハ外國ニ於テ製造シタル蠶種ヲ移入又ハ輸入シタル者ハ其ノ蠶種ニ對シ母蛾又ハ卵ニ付検査ヲ受クヘシ但シ前條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラス

移入又ハ輸入前官署公署ノ證明ヲ得タル蠶種ニ對シテハ前項ノ検査ニ代ヘ其ノ證明ニ付検査ヲ爲スコトヲ得
第十九條 主務大臣又ハ地方長官ハ桑苗ノ仕立、蠶絲類ノ検査又ハ桑苗蠶種若ハ繭ノ賣買若ハ取引市場ニ關シ取締上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得但シ地方長官ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第二十條 蠶種ヲ下ニ又ハ容器ヲ加フ
第二十一條 削除
第二十二條 第十一條ノ下ニ「及第十七條」ヲ加フ

第二十三條 削除
第二十四條 第八條第六號「ヲ」第九條乃至「改メ」第十一條ノ下ニ「第十七條」ヲ加フ

第二十六條 蠶病豫防事務及地方種繭審查會「ヲ」第十一條及第十七條ノ検査其ノ他蠶病豫防ニ改ム
第二十七條 府縣ハ第十一條第一項ノ検査ヲ受ケタル蠶種ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ原蠶種ニ供用シタルコトノ證明ナキモノニ限り検査手續料ヲ徴收スヘシ

府縣ハ第十一條第三項ノ検査ヲ受ケタル蠶種ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ検査手續料ヲ徴收スルコトヲ得
第三十五條 蠶病豫防ニ關シ蠶種又ハ生繭「ヲ」蠶病若ハ桑ノ病蟲害ノ豫防

又ハ蠶絲類ノ検査ニ關シ蠶種、生繭桑苗又ハ蠶絲類「ニ改メ」飼育場ノ下ニ「圍場」ヲ加フ
第三十六條 第十一條ノ下ニ「及第十七條」ヲ加フ

第三十八條 又ハ第十七條ヲ削リ第十一條ノ下ニ「及第十七條」ヲ加フ
第三十九條 第二號及、第八條又ハ第十六條第三項ヲ削リ第三號ヲ第二號、第四號ヲ第三號トス
第四十條 又ハ第十條ヲ削ル
第四十一條 第四號ヲ「第三號」ニ改ム

本令施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
從前ノ規定ニ依リ特別蠶種ハ之ヲ原蠶種ト看做ス
○議長(大岡育造君) 農商務大臣
(國務大臣仲小路廉君登壇)
○國務大臣(仲小路廉君) 本案提出ノ理由ヲ申述ベマス、今日農村農民ノ副業ト致シマシテ、殊ニ海外貿易品中ノ重要ナルモノト致シマシテハ、養蠶生絲ノコトデアリマス、此養蠶生絲ノ爲ニ時局今日ノ場合ニモ尠カラヌ恩澤ヲ一般ニ及ボシテ居ルデアリマス、殊ニ養蠶ノ知キハ近年各種ノ點ニ於テ種々改良ノ途ガ付イタデアリマス、生絲ノコトニ就テモ同様デアリマス、現在施行サレテ居リタル蠶絲業法ハ、此時勢ノ進歩ニ伴ヒマシテ各種改良ノ點ニ就キマシテ時勢ニ會ハナイモノガアルデアリマス(簡單々々)ト呼フ者アリ、故ニ是等ノ爲ニ適應セシメル爲メニ、今回此處ニ改正案ヲ提出シタルデアリマス、主トシテ蠶絲ノ改良ノ目的カラ、検査其他ノ手數ハ成ベク之ヲ簡易ニ致シテ、負擔ヲ輕減致ス方法ヲ執ツタデアリマス、是等ノ趣意ヲ以チマシテ本案ヲ提案致シタルデアリマス、御審査ノ上速カニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長(大岡育造君) 武藤金吉君
(武藤金吉君登壇)
○武藤金吉君 蠶絲業法中改正ニ就キマシテ、本員ハ農商務大臣ノ說明ノ足ラザルヲ遺憾トスルモノデアリマス、我國ノ蠶絲業ハ農業中ノ主腦デアリマス、又輸出貿易ノ主腦ナルハ勿論、此大問題ニ就キマシテ政府ハ此蠶絲業法ノ改正ニ誠心誠意用井ラレテ居ルデアリカ否カガ疑問デアリマス、此蠶絲業法ヲ改正スルニ就キマシテハ、非常ナル經驗ノ成績ト學術ノ研究トニ俟ツテ大切ナ問題デアリマス、一事一物モ實際ニ離レマシタラバ、此法律ハ有害ノモノデアアルデアリマス、然ルニ農商務省ニ於キマシテハ果シテ信念ヲ以テ此案ヲ出サレタデアリマスカ否ヤ、聞ク所ニ依リマス、此案ハ昨年中央會ニ諮問サレテ、各府縣中二十何縣ハ是ノ代表者ハ同意サレタ、數縣ノ代表者ハ反對セラレタ、越ヘテ今年ノ唯今ニナリマス、各府縣共ニ此改正案ノ要旨ニ對シマシテハ、異論ガ起ツテ居ルデアリマス、其異論ニ對シテ今日政府ハ果シテ政府ノ信念ヲ以テ此法律ヲ制定スル方ガ宜イコト云フ考ヲ有ツテ居ルデアリマス、之ヲ大要ニ別チマシテ說明ノ宜イヤウニ私ハ質問ヲ試ミマス、此一蛾飼育ト云フコトハ結構ノコトデアリマス、一蛾飼育ヲ強行シテ、サウシテ蠶種ノ原種ヲ造ルコトニスルコトハ結構デアリマスカ否ヤ、現在アリマス蠶種業者ガ果シテ此一蛾飼育ヲ急ニ之ヲ造ルコトガ出來マスカ否ヤ、又現在ノ蠶種業者モアルデアリマス、此一蛾飼育ハドウ云フ風ニスルモノデアアルカト云フコトヲ知ラナイ營業者モアルデアリマス、此一蛾飼育ト云フ事ハ好イ方法デアリマスケレドモ、何時之ヲ行フ積リデアリマスカ知リマセガ、行ヒ得ルコトガ出來ルカト云フ事ヲ一ツ承リタイ、次ハ病蟲ノ歩合検査デアリマス、病蟲ノ歩合検査ヲ此法律カラ見マスルト、百分ノ三以內ヲ無毒トシ、百分ノ三以上ヲ有毒トスルコトニナツテ居リマス

ガ、此病毒百分ノ三ト云フモノ、標準ハ、何カラ割出シテ此標準ヲ御立テニナツタカ、此百分ノ三ト云フコトニナリマス、百分ノ三ニ「コンマ」一アリマスレバ有毒デゴザリマス、百分ノ三「コンマ」九ナレバ是ハ無毒デアリマス、斯ウ云フコトニ標準ヲ立テ行キマシテ、今日ノ如キ検査官ガ検査ヲ致シマスル、非常ノ此蠶業上ニ對シテハ、此邊ノ損害ト云フカ、謂フベカラザル所ノ當業上ニ障礙ガ起ルと思フデアリマス、此邊ノ御研究ハドウ云フ風ニナリ居ルノデアリマス、詳シイ質問ハ幾多ノ材料幾多ノ調ヲ私ハ持テ居リマス、委員會ニ讓リマス、農商務大臣ハドウ云フ風ニ御認メニナレ、此病毒ノ歩合検査ノ標準ヲ御立テニナツタデアリマス、承リタイ、次ハ此法律案ヲ出シマスニ就テハ、是非共法律ノ改正ヲ之ニシナケレバ、之ト同様ニシナケレバナラヌ問題ガアル、本日午前ニ於テ豫算委員會ニ於テ本員ハ政府ニ質問ヲ致シマシテ、大藏大臣ノ答辯ヲ得マシタガ、要領ヲ得マセヌ、重ネテ農商務大臣ニ私ハ説明ヲ求メルデアリマス、此蠶絲業法ヲ改正シテ、主ニ外國種ヲ入レテ基礎原種ニシテ、外國ノヲ購買シ、外國種ヲ「ドシ」ヤルト云フコトガ本ニナツテ、此法律ノ改正ガ出來ル以上ハ、外國種ヲ輸入スルニ就テ、何故ニ關稅ノ改正ヲ此法律ノ改正案ト一緒ニ御出シナラヌデアルカ、此法律ハ尤モ十年前以前ニ出來タ法律デアリマシテ、其後蠶絲業ノ進歩ハ日ニ月ニ發達ヲ致シマシタ、今日ハ殆ド此法律ト實際ト遠カデハ居リマス、ガ、外國種ノ輸入ニ就キマシテハ近年非常ナル大キナ數ニナリ居ル、其輸入ニ就キマシテハ何處カラ入リマスモノデモ、關稅定率法ニ依リマシテ動物、植物、生活力ヲ有スルモノト云フ項ニ於テ何ニモ書イテアリマセヌカ、其他「ト云フモノ」中ニ入レテ「其他」テ從價一割ノ重稅ヲ課セラレテ居ル、殆ド禁止稅ヲ此蠶種ニ課セラレテ居ルデアリマス、翻テ農商務省ノ所管ニ屬シテ居リマス種馬、種牛、種豚、ソレカラ家禽、此等ノモノヲ外國カラ輸入スル時分ニハ無稅ニナリ居ル、然ルニ此日本ノ蠶桑フ左右スル所ノ貿易品ヲ左右スル所ノ原種ニ對シテハ、依然此關稅定率ノ法律ニ從テ從價一割ヲ課スル、課スルダケナラ宜シイガ、彼ノ溫度ノ工合ニ依テ寒暖ノ工合ニ依テ發生モスレバ損ジモスル、此生物ヲ扱フ稅關ニ五日モ一週間モ留メラレテ、現在ニ於テハ非常ナル障礙ヲ來シテ居ル、然ルニ此外國種ヲ取扱フ基礎原種トシテ蠶種ノ改良ヲ圖ルト云フ根本問題ニ對シテ、外國種ノ輸入ノ關稅ヲ廢セザルハ、農商務當局ハ氣ガ付イテヤナイデアリカ、氣ガ付カナイデアルカ、其他病毒ノ歩合カ總テノ調査ハ全國カラ悉ク蒐メテ居リマス、カ、詳細ノコトハ委員會ニ讓ルコトニ致シマセウガ、此等ノ大體ニ就テ農商務大臣ハ頗ル聰明ナル頭ヲ有シテ御出シニナリマス、此蠶絲業ト云フコトニ就テハ徹底サレテ居ルデアリマス、徹底サレテ居ナイデアリマス、私ハ恐ラクハ國務多端デ此案ニハ官判ヲ探シテ御出シニナツタデアリマス、幸ニ私が會得スル說明ヲ得マシタナラバ、斯業ノ爲ニ國家生産ノ上ニ於テ頗ル満足スル次第デアリマス

○隅田豐吉君 議長、一寸一緒ニ御答辯ヲ願ヒタイ

○議長(大岡育造君) 何デス

○隅田豐吉君 質問ヲ致シマシテ同様ニ御答辯ヲ願ヒタイ

○議長(大岡育造君) 今武藤君ノ質問ニ對シテ答辯ガ濟シタ後ニ願ヒマス——農商務大臣

(國務大臣仲小路廉君登壇)

○國務大臣(仲小路廉君) 武藤君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、今回蠶絲業法中ノ改正ヲ致スニ就キマシテハ、是コソ實ニ蠶家生絲家ニハ少カラヌ關係ヲ持ツデアリマス、私共ニ於キマシテモ出來得ル限リヲ注意ヲ拂ヒマシタ積リデアリマス、又實地ニ就キマシテ種々ノ狀況ヲモ調査致シタデアリマス、今日ノ場合ニ於キマシテハ蠶家及生絲業者ノ爲ニモ此改正ヲ必要ト致シテ居ルデアリマス、唯今仰セニナリマスル如クニ、

多數ノ中ニハ問ニ異論ヲ唱ヘル者ガ無イデアリマセヌ、併ナガラ此等ニ就キマシテモ當局ニ於キマシテハ、出來ル限リノ方法ヲ盡シマシテ、ツレトモ説明ノ途モ執ツタデアリマス、又諮問ヲ致スベキ所ニハツレトモ諮問モ致シタデアリマス、其結果ニ依リマシテ今日ハ先ツ検査ノ方法ヲ原蠶種ヲ本トシテ致ス以上ハ、今日マデ行ハレテ居タヤウナ手數ノ多イ検査ノ途ヲ執ラナクテモ宜シカラウト存スル、隨ツテ之ニ依テ検査ノ費用モ亦節約スルコトガ出來ルデアリマス、唯今御質問中ノ一級飼育等ノ點ニ付キマシテモ、當局ニ於テハツレトモ注意ヲ致シマシテ、此實行ニ就テハ相當ノ準備ヲ致ス考デアリマス、是等ノ準備ヲ致シマシテ、成ベク蠶絲養蠶家ガ一日モ速ニ改正法律ノ恩惠ニ潤フ爲ニハ、少シモ早ク改正ヲ致シテ置キマシテ、相當ノ準備時間ヲ與ヘルコトガ必要ト存ジタデアリマス、ツレ故ニ今期ノ此議會ニ提案スルコトニナツタ次第デアリマス、又病毒歩合等ニ付キマシテモ、亦實地ニ遠ザラナイ積リヲ以テマシテ、ツレトモ目論見ヲ立ッテ居ルデアリマス、孰レ是等ノ點ハ詳細委員會ニ於キマシテ説明ヲ致シマシテ宜シイデアリマス、ツレカラ第二ノ關稅ノ點デアリマス、是ハ私モ全ク御同様に今日ノ場合ニ於テ、外國種ヲ日本ニ入レルナラバ、關稅ノ點ニ相當ノ考慮ヲ加ヘテ宜シカラウト思ヒマス、唯今日迄ノ情況デハ先ツ今ノ儘ニ致シテ置キマシテ、差シテ實際ニ支ハナイカト存スル、是ハ今朝既ニ大藏大臣ヨリモ答辯モ有ツタト存シマス、深ク此點ニハ同情ヲ以テマシテ、孰レ時期ヲ計リマシテ都合宜シイ關稅ノ改正ヲモ試ミル積リデアリマス、是ニテ御諒承ヲ願ヒマス

○武藤金吉君 當席ヨリ尙一言御尋ヲ致シマス、唯今農商務大臣ノ相當ノ時期ト云フハ、何ノ議會ヲ指スデアリマス、研究ノ時期ヲ置クト云フデアリマス、斯ノ如キ法案ガ決定スル同時ニ、此關稅ノ問題ハ決定シナケレバナラヌ問題デアリマス、モウ少シ相當ノ時期ヲ次ノ議會ト解釋シテ宜シウ御坐イマス、明カニ承ツテ置キタイ

(國務大臣仲小路廉君登壇)

○國務大臣(仲小路廉君) 御答致シマス、關稅ノ點ニ付キマシテハ大藏省トモ種々ノ協議ヲ致スベキコトガ多イデアリマス、殊ニ大藏省ニ於キマシテモ今日ノ場合關稅ノ點ニ付テハ種々ノ調査ヲ致シテ居ルデアリマス、從ツテ是等ノ點ニ付キマシテハ唯今直チニ次ノ議會ト此處ニ明言ヲ致スコトガ出來マセヌデアリマス、成ベク速ニ相當ノ方法ヲ立テマシテ遺漏ノナイ道ヲ執リタイト存シマス

○隅田豐吉君 本員ノ質問ハ委員會ニ讓リマス

○議長(大岡育造君) 隅田君ハ委員會ニ御讓リニナリマス

○隅田豐吉君 サウデス

○大口喜八君 議長、質問ガアリマス

○議長(大岡育造君) 登壇ヲ許シマス

(大口喜八君登壇)

○大口喜八君 我ハ此際我國ニ於ケル蠶絲業ニ對シマシテ、當局者ノ執ラル、所ノ方針ニ向テ一言質問ヲ致シテ置キタイと思フデアリマス、熟シ此世界ノ大勢ヲ見マスルニ、唯今化學工業ノ進歩ト云フモノハ實ニ驚クベキモノデアリマシテ、世界ノ大亂ノ始マリマス、前ニ當ツテ、人造絹絲ノ研究ト云フコトガ容易ナラヌ所迄進シテ居ルコトデアルト私ハ信ヅテ居ル者デアリマス、獨逸ノ或學者杯ハ公言シテ居リマス、今ヨリ二十年ノ後ニ至ツテハ日本國ノ生絲ハ、必ズ人造絹絲ヲ以テ之ヲ壓倒シテ見マスルト云フコトヲ申シタト云フ事ヲ聽イテ居ルデアリマス、然ルニ此世界ノ戰爭ノ結果、獨逸ノ人造絹絲研究ハ稍、止シテ居ルガ如クデアリマス、愈々戰爭ガ濟ミマシタル曉ニハ、世界ノ學者ハ此人造絹絲ノ研究ニ向テ益々歩ヲ進ムコトデアラウト私ハ確信シテ居ルデアリマス、斯様ナルコトヲ申シマス、如何ニモ架空ノ議論ヲスルヤウデアリマス、諸君モ御承知ノ

通り英吉利ノ印度藍ハ如何デアッタアリマセウ、英國ハ印度ノ藍ヲ植付ケテ、是ヨリシ
ニインデゴヲ取ツテ、盛ニ此世界ノ市場ニ染料ヲ供給シテ居タルデアリマスガ、一度獨
逸ガ化學工業ニ依テ人造藍ヲ發明致シタル結果ハ、世界ニ於ケル藍ノ供給ト云フ
モノハ全ク押潰サレテ仕舞デ、今ヤ世界ノ染料界ニ於ケル青キ色素ハ悉ク人造藍ヲ以
テ供給サレテ居リマス、我日本帝國ニ於キマシテモ人造藍ヲ輸入シテアルト考ヘル、此
上世界ノ化學工業ガ駁々ト進ムコトヲ考ヘマスレバ、我國モ第一ノ國產染料生絲ニ
向ヒマシテハ、今日ヨリ人造絹絲ナルモノニ對シテ相當ノ施設ガ無クテハナラナイ、愈
外國ガ化學工業ヲ進メマシテ相當ノ人造絹絲ガ出テ來ル、我國ノ蠶ノ取ル絹絲ガ
愈々之ニ壓倒セラレ、乃至、初メテ狼狽ラシテ種々ナ法案ヲ出スヤウナコトデハ、到底
我國ノ實業ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以デナイト思ヒマス、即チ今日ニ當ツテ此世界ノ化學
工業ノ進歩ニ鑑ミ、人造絹絲ガ進シテ來ル曉ヲ想像致シマシテ、世界大亂ノ好時期ニ
方テ我國ノ蠶業界ニ向ツテ相當準備ガ無クシテバナラヌト思ヒマス、之ニ對シテハ私ハ多
少ノ意見ヲ持ツテ居リマスガ、自己ノ意見ハ此處デ言フベキ場合デナイ、之ニ對シテ農商務
大臣ハ如何ヤウニ考ヘテ居ラル、カ、此御意見ヲ此際確メテ置キタイト思フノデアリマス
(國務大臣仲小路廉君登壇)

○國務大臣(仲小路廉君) 大口君ノ御質問ニ御答ヲ致シマス、人造絹絲ノコトハ
今日化學工業ノ進歩ニ伴ヒマシテ、各國ニ於キマシテハ勿論ノコト、我國ニ於テモ是等
ノ點ニ付キマシテハ種々ノ研究ヲ致シ調査モ致シテ居ルデアリマス、殊ニハヤ既ニ人造
絹絲ノ一端ハ實行ニ著手致シテ居ル所モアルデアリマス、併ナガラ此人造絹絲ノ爲ニ
自然ノ生絲ニ迄影響ヲ及ボシテ來ルト云フ時ハ、唯今ハマダ直接ノ關係ハナイト存シマ
ス、去ナガラ政府ニ於テハ固ヨリ是等ノ點ニ付キマシテハ、怠リナク注意ヲ致シテ居リマ
ス、人造絹絲ノ發達ニ伴ヒマシテ又取ルベキ至當ノ道ハ必ズ怠ラズニ適切ナ施設ヲ致ス
積リテ居リマス
○議長(大岡育造君) 日程第二十六、右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉ヲ議
題ト致シマス

第二十六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉
○恆松隆慶君 本案ハ十八名ノ委員、議長指名アラムコトヲ願ヒマス
○議長(大岡育造君) 恆松君ノ動議ニ御異議アリマセウカ
(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)
○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ恆松君ノ動議ノ如ク決シマス、日程第二十
七、製鐵業獎勵法案ヲ議題ト致シマス

第二十七 製鐵業獎勵法案(政府提出)

第一讀會

製鐵業獎勵法案

第一條 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製鐵能力ヲ有スル設備ヲ
以テ營業トシ製鐵事業ハ土地收用法第二條ノ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ
得ル事業トシ同法ヲ適用ス
前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ收用又ハ使用シ得ヘキ製鐵事業ノ範圍ハ
勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製鐵能力又ハ製鋼能力ヲ
有スル設備ヲ以テ製鐵事業ヲ營業ス者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年
及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ場所ニ於ケル事業ニ付營業稅及業務ヨリ生ス
ル所得ニ對スル所得稅ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ營業稅及所得稅ノ免除ヲ受クヘキ製鐵事業ノ範圍ハ勅
令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 一ノ場所ニ於テ一年三萬五千佛噸以上ノ製鐵能力又ハ製鋼能力ヲ
増加スル設備ヲ爲シタルトキハ能力増加ノ年及其ノ翌年ヨリ十年間其ノ
増加シタル能力ニ付前條ノ規定ヲ準用ス
第四條 前二條ノ規定ニ於テ三萬五千佛噸トアルハ低價鐵製造事業ニ付
テハ三千五百佛噸トス
第五條 農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル計畫ニ基キ命令ノ定ムル期間内ニ製
鐵能力ノ設備又ハ其ノ能力増加ノ設備ヲ完成スルトキハ其ノ完成ノ年ヲ
以テ第二條ノ開業ノ年又ハ第三條ノ能力増加ノ年ト看做ス
前項ノ規定ニ依リ設備完成前其ノ設備ニ依リ事業ヲ營業ス場合ニ於テモ其
ノ能力ニ付營業稅及所得稅ヲ免除ス但シ前項ノ期間内ニ設備ヲ完成セサ
ルトキハ此ノ限ニ在ラス
第六條 製鐵ノ事業ヲ繼續スル者又ハ其ノ事業ヲ繼續スルモノト認ムヘキ
事實アル者ハ前事業者カ本法ニ依リ營業稅及所得稅免除期間内ニ在ルト
キハ其ノ期間ヲ繼承ス
第七條 北海道、府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ營業
稅及所得稅ヲ免除セラレタル製鐵事業者ニ對シ其ノ免除セラレタル部分
ニ相當スル資本金額 從業者營業用ノ工作物若ハ物件、使用動力又ハ收
入ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス
附則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第九條 本法施行ノ際現ニ製鐵事業ヲ營業ス者ハ本法施行後三年内ニ一ノ場所
ニ於テ第二條ノ能力ヲ有スル設備ヲ爲スニ至リタル場合ニ於テ開業ノ年
ノ翌年ヨリ十年ヲ經過セサルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ殘期間第二條
ノ規定ヲ準用ス
第十條 本法施行前ヨリ一ノ場所ニ於テ第二條ノ能力ヲ有スル設備ヲ以テ
製鐵事業ヲ營業ス者其ノ開業ノ年ノ翌年又ハ第三條ノ能力増加スル設備
ヲ爲シタル年ノ翌年ヨリ本法施行ノ日迄二十年ヲ經過セサルトキハ命令
ノ定ムル所ニ依リ殘期間第二條又ハ第三條ノ規定ヲ準用ス
第十一條 第四條及第五條ノ規定ハ前二條ノ規定ニ付之ヲ準用ス
第十二條 第二條ノ能力ヲ有スル製鐵事業ノ設備又ハ第三條ノ能力増加ノ
爲必要ナル器具、機械其ノ他ノ材料ヲ輸入スルトキハ本法施行ノ日ヨリ
十年間勅令ノ定ムル所ニ依リ輸入稅ヲ免除ス第九條ノ規定ニ依リ設備ヲ
爲ス場合亦同シ

○國務大臣(仲小路廉君) 議長
○議長(大岡育造君) 農商務大臣
(國務大臣仲小路廉君登壇)
○國務大臣(仲小路廉君) 本案提出ノ理由ヲ説明致シマス、今日我國ノ狀況ニ於
キマシテ、鐵ニ付キマシテハ最モ其必要ヲ感ジテ居ル時デアリマス、此點ハ官民共ニ深ク
此事ニ苦慮致シテ居ルデアリマス、政府ニ於キマシテモソレノノ方法ヲ採リマシテ、出
來ル限リハ今日ノ急需ニ應ジテ積リテ居ルデアリマス、決シテ今日ノ場合ハ政府ノ手
一ツテ萬事ニ行届クモノデハナイデアリマス、此際民間ニ於キマシテモ相當ノ規模ノ大
ナル有力ナル鐵工場ノ起リマスコトハ、今日ノ急需ニ應ズル上カラ見マシテモ、甚ク切要

ヲ感ズルノデアリマス、政府ハ此等ノ趣意ニ依リマシテ相當規模ノ大ニシテ計畫ノ完キモ
ニ付テハ、獎勵ノ途ヲ執リマシテ、之ヲ興隆ヲ望ム積リデアリマス、唯補助獎勵ノ方
法ハ時ニ依リマシテハ弊害ナシトハ申サレモメノデアリマス、此等ノ點ニ付キマシテモ餘
程ノ考慮ヲ致シマシテ、補助獎勵ノ途ニ直接ノ途ハ之ヲ避ケマシテ、主トシテ各稅ニ對
スル免除、或ハ必要ナル土地ニ付テ公用徵收ノ途ヲ開キマシテ、若クハ必要ナル機械
ノ輸入ニ對シテ稅ヲ免ズル等、而モ此等ノ事モ永久ニ涉ツテ致スノハ國家ノ爲ニモ甚ダ
宜シクナリト存ジマス、唯事業ノ完成ヲ致ス迄ノ時間デアリマス、即チ十箇年間獎勵ノ
爲ニ、此等ノ補助ヲ致シタリト云フ趣旨デアリマス、本案ハ今日ノ場合緊要ナル案デア
リマス、願クハ御審査ノ上速ニ御協賛アラムコトヲ希望致シマス

○議長(大岡育造君) 中村啓次郎君

○中村啓次郎君 極メテ簡單デアリマスカラ當席カラ述べマス

○議長(大岡育造君) 宜シウ御坐イマス

○中村啓次郎君 本員ハ大體此政府ノ本案ニ關スル方針ニ付キマシテハ、唯今農商
務大臣ノ述べラレタル御趣旨ニ同意ヲ表スルデアリマス、併シナガラ其ノ方法手段デア
ル、此本案即チ製鐵業獎勵法ニ付キマシテ多少ノ疑ナキ能ハスデアツテ、三四箇條ニ付
テ質シタリト思ヒマス、第一ハ此本案ノ第一條第二條ニ於テ、同一ノ場所ニ於テ二萬
五千佛噸以上ノ製鐵能力又ハ製鐵能力ヲ有スル者ニ非ザレバ、本法ノ保護ヲ受ケ
ル能ハズトナリ居リマス、其理由ヲ聽キマス、デアリマス、同時ニ現在ニ於キマシテ二萬
五千佛噸以上ノ製造致シテ居リマス工場、若クハ個人ガ幾人アリマスカ、其名前等
モ承リ得レバ承リタイデアリマス、第二ハ唯今農商務大臣ノ述べラレタル所ニ據リマス
ト云フ、此保護ノ年限ハ頗ル長カラザルヲ得ナイ、即チ十箇年ヲ要スル所ニ規定シタル
モノ是デアルト云フヤウナ意味ニ承リマシタノデアリマスガ、私共多少人筋ヨリ聞及ンデ
居ル所ニ據リマスルト云フ、製鐵事業ノ如キハ二四年間保護ヲサレルト云フコトナリ
マスレバ自立ガ出來ル、其以上保護ヲ受ケナレバ尙ホ自立シ能ハズト云フガ如キハ、經
營其宜シキヲ得ナイモノデアルト云フコトヲ承ツテ居ルデアルト、此等ノ點ニ付キマシテ、政
府ハ十箇年ノ營業稅及所得稅ヲ免除シナレバナリ、即チ本法ノ保護ヲ與ヘナレバ
ハナラナイト云フ、此長キ期間ニ致シマシタル理由、第二ハ保護政策ヲ採リマスル他ノ
事業ニ於キマシテ、是迄所得稅若クハ營業稅ヲ免除シタル例アリヤ、是ハ既往ニ對シ
テ何ヒタイデアリマス、將來ニ於キマシテモ此様ナモノ、即チ時ノ必要ナル要求ニ依テ
保護ヲシナケレバナリト云フヤウナモノガ生ジマシタル時分ニハ、矢張り本法ノヤウニ營
業稅若クハ所得稅ヲ免除スル所ニ付ヤウナ事柄、即チ此法律案ト同ジヤウナコトヲ政府
ハ爲ス意思アリヤ、此事項ノヤウナ事柄發生シタル場合ニ政府ニ保護ヲ——所得稅免
除若クハ營業稅免除ヲ要求シタル場合ニハ、是ニモ亦許スト云フ御考デアルカドウカ、
ツレカラ第四ハ、政府ハ今日ノ場合ニ當ツテ小製鐵業者ヲ保護スル所ニ付コトハ、今日
ノ國策ノ急務ト心得テ居ナイノデアリカ、單リ三萬五千佛噸以上ト云フモノミヲ保護
シテ、小ナル製鐵業者ヲ保護スル意志ガ無イデアルカ、多少理窟ニ走ルヤウデアリマス
ガ、今日ノ大キナ製鐵業ヲ計畫致シテ居リ、實行致シテ居ル者ハ、政府ニ於キマシテハ
官營ノ仕事トシテハ八幡ノ製鐵所、是ハ多クハ大冶ノ鐵山ヨリ鐵石ヲ採テ居ルデア
リマス、又東洋製鐵所ノ如キハ南支方面ノ桃沖鐵山ノ鐵石ヲ採ルコトニ深イ關係ヲ持
テ居ルト云フコトデアル、大倉組ハ本溪湖ニ於テ或ハ三井、三菱ハ朝鮮ニ於テ——我
帝國內地ニ於テ製鐵工業ノ大ナルモノガ起ラヌト云フコトハ、吾人共ニ遺憾トシテ居
ル所デアリマス、是ガ此鐵山ノ盛ニ採掘サレザルハ他ノ金屬鐵山ノ如ク價ガ高カラザル
故ヲ以テ盛ニ起ラナイノデアリマスカ、我帝國內地ニ於キマシテモ此礦物ガ他ノ金屬礦
物ノ如キ價ノ昂騰ヲ見ルニ到リマシタラバ、盛ニ採掘ガ行ハレルト、思フデアリマ

ス、此等ノ採掘ノ盛ニ行ハレルト云フコトハ、山間僻地ニ於テ小製鐵所ノ盛ニナル
ト云フコトガ前提デアルト信ジマス、然ルニ政府ハ此三萬五千佛噸ト云フ如キ大ナル製
鐵工場ノミヲ保護シ、小製鐵工場ヲ保護シナイト云フガ如キハ、鐵ノ獨立——自給ヲ
圖ルト云フコトヲ、官民共ニ所期シテ居ル、今日ノ此時局ノ對策ト致シマシテハ、甚
ダ遺憾ナキ能ハヌト思フデアリマス、政府ノ志ノ存スル所ハ甚ダ諒ト致シマスガ、同ジク
ハ此法律案ノ中ニ小製鐵業者ヲ保護スル所ニ付事ヲ具セラレテ居リタラバ、吾人共ニ
満足スル所ニ付意思ヲ以テ政府ノ所見ヲ伺ヒタイデアル、第五ハ政府ガ保護法ヲ採リス
ノニ、營業稅ヲ免ズル或ハ所得稅ヲ免ズル所ニ付ヤウナコトヲ行フ、頗ル避ケテ多少不公
平ナル形ヲ持ツテ居ル保護政策ヲ採ラナイデ、寧ろ海外ヨリ輸入サレタル鐵材ニ對シ
テ輸入稅ヲ增加スル所ニ付コトニナツタラバ、小製鐵業者モ大製鐵業者モ均シク共
ニツレ相應ノ惠ニ浴スルコト、思フデアリマス、而シテ此輸入稅ヲ課シテ、以テ保護
政策ヲ行ヒシコトハ、從來ニ於テモ既ニ先例アルコトデアル、彼ノ砂糖保護法ノ如キ、今
日尙三圓ノ輸入稅課シテ致シテ砂糖ノ獎勵ヲ致シテ居ル、或ハ又砂糖ニ對シテハ白糖、
精製糖トシテ海外ニ出ス時分ニハ戻稅ヲ與ヘテ居ル、此様ニ帝國ノ製鐵事業ヲ真ニ保
護セント欲スルナラバ、平和克復ノ後外國カラ安イ鐵ガ本邦内ニ多ク輸入シ來ルト云フコ
トニナツタラバ、此姑息ナル保護ヲ以テ育テ上ゲタル所、製鐵事業ガ、一朝ニシテ衰微
ニ歸スルデアリマス、政府ハ製鐵業獎勵ノ意思アリトスレバ、徹底ノニ此本邦内ニ
於ケル製鐵事業ヲ完全ニ發達セシムル程度マデ、海外ヨリ輸入ヲスル所ノ鐵材ニ對シ
テ、輸入稅ヲ課シテ以テ一面ニ於テ國庫ノ收入ヲ圖リ、此收入ヲ以テ又製鐵事業ヲ
保護スル所ニ付ヤウニ、徹底的ニ保護ヲスル所ニ付考ハ無イデアルカ、此等ニ對シテ明
瞭ナ答辯ヲ待ツデアリマス

○國務大臣(仲小路廉君) 御答ヲ致シマス、中村君ヨリ數箇條ニ互ル御質問デアリ

マシタガ、其要點ニ付キマシテハ、此法案ノ爲メニ最モ大切ノ關係ト存ジマス、纏メテ
此點ニ付テ答辯ヲ致ス積リデアリマス、第一ノ御趣旨ハ同一ノ場合ニ於テ二萬五千噸
以上ノ工場ヲ保護スル、ナゼ、鐵ヲ保護スル所ニ付積リタラバ同一ノ場合ニ於テ二萬五千噸
サナ製鐵業者モ保護シテ然ルベキハナイカ、然ルニドウ云フ趣旨ヲ斯ウ云フヤウニ爲
シタデアルカト云フ御質問デアリマス、是レハ洵ニ至當ナ御質問デアリマシテ、此際政府
ニ於テモ此法案ノ趣旨ヲ明ニ致シテ置キタイ存ズルデアリマス、此法律ニ於テ二萬
五千噸以上ノ能力ヲ有スル工場、而モツレガ同一ノ場合ニ於テ二萬五千噸ハ、之ニ深イ意
味ヲ有テ居ルデアリマス、今日中外ノ事情ニ鑑ミマシテモ、我が内地ニ於テ出來得ル
限りハ基礎ノ確實ニシテ相當ノ規模ノ大ナル工場ノ興ラムコトヲ望ムデアリマス、是ハ
普通ニ稱スル、有事ノ場合ニ於テハ工業動員トモ申シテ居ルデアリマス、官トナク
民トナク、我が國內ニ於テ出來ル力ナクテ有力ナ工場ノ興ラムコトヲ深ク望ムデアリマス、
即チ其結果トシテ規模ノ小サナ計畫ノ誠ニ薄弱ナモノ、ツレハ國家ノ期スル目的ニ適ハ
ヌデアリマス、乃チ茲ニ三萬五千噸以上ノ能力ヲ有スル工場ハ、國家ノ將來ニ於テ
公益上必要ト認メテ居ル、此趣旨ニ依リマシテ政府ハ出來得ル限りノ道ヲ以テ保護シ、
之ヲ獎勵シタリト存ズルデアリマス、保護獎勵トシテ、或ハ營業稅ヲ免除スルコト、所
得稅ヲ免除スルコト、其他ノ免稅ヲ致スコトハ決シテ好デ爲スベキモノデハナイ、唯國
家ノ必要上規模ノ大ニシテ、基礎ノ確實ナル工場ノ興ラムコトヲ望ムガ爲ニ此方法ヲ
採ツタデアリマス、又其次ニハ年限ノ事ニ付テハ御質問デアリマシタ、是モ實ハ希望ヲ述
ベル者カラハ、十年デハ物足りヌト申スデアリマス、願クハ二十五年間ノ補助期間ヲ
欲シト云フコトヲ述ベル人モアルノデス、又唯今中村君ノ仰セナルヤウニ、大抵三年
五年ヲ見積ツテ見タラバ、一通リノ目的モ立ツデハナイカト云フ說モアル、是等兩方ノ

事ヲ考ヘ合セマシテ、此處二十年ナラバ至當アラウト考ヘマシテ、十箇年ト云フ期限ヲ置イテアリマス、尙將來ノ關稅ノ事ニ付テアリマス、政府トシテハ固ヨリ今日ノ場合ニ、鐵ノ自給ヲ必要ト考ヘテ居リマス、故ニ此點ハ飽ク迄徹底ノ方法ヲ採リタイト存シテ居ルノデス、從テ各種關稅等ニ付テモ考慮スベキ時期ガアラウト存シマス、唯今日ノ場合寧ろ鐵ノ需要ヲ緊要ト致シテ居ル時デス、此時期ニ於テ關稅ノ變更ヲ致シマスコトハ得策デナイト思フ、何レ是等ノ事柄ハ時期ニ依リマシテ、我ガ鐵ノ自給ヲ必要トスル場合ニハ、關稅ノ政策トシテモ必要ナ方法ヲ採ルコト、存シマス、其他尙既設ノ工場トシテ三萬五千噸以上ノモノガ有ルカ無イカト云フコト、將來ニ與ルコトヲ望ム位デアリマスカラ、今日トシテハ誠ニ少ナキノ、僅カニ釜石其他ノモノガソレニ相當シテ居ルモノト思フデアリマス、尙ホ此等ノ精シイ狀況ハ委員會ニ於キマシテ明瞭ニ工場ノ狀況ヲ御話申上ゲテ宜シト思ヒマス

○關直彦君 農商務大臣ニ說明ヲ求メタイト思フデアリマス、本案ノ趣旨ニ於キマシテハ、製鐵事業獎勵保護ト云フ事ハ刻下ノ急務デアルト云フコトニ付テハ、吾モ御同感デアル、シテ見マスレバ此法案ノ通リニシマスト云フコト、其保護ノ方法ト致シマシテ、土地ノ收用法ヲ適用スルト云フコト、及ヒ營業稅並ニ所得稅ヲ免除スルト云フ止メテアルノデアリマスガ、何故ニモウ少シ奮發セラレマシテ、モウ少シ徹底的ノ保護ヲサレナイモノデアルカト云フコトヲ私ハ同ヒタイデアリマス、此法案ノ如キニ依リマスルト、三萬噸以上ノ製造ヲ一仕上ケルコトヲ企テベキモノハ或ハ我邦今日ノ一二ノ富豪ニ於テハ引受ケ得ルデアリマス、其富豪ノ事業ニ向テ所得稅及營業稅ヲ免除スルト云フコトハ、保護ガ富豪ニ厚クシテ、一般ノ營業家ニ及バズデハナイカト云フ虞レガアルノデアリマス、若シ一歩ヲ進モシテ、斯カル大企業家ノ與者ニ向テ、或ル率ノ保護ヲ與ヘル、補助金ヲ與ヘルト云フ進モシマシタラバ、續ク大會社ガ起ルデアラウト思フ、問題ハ違ヒマス、矢張り農商務省ノ御管轄ニ於キマシテ、先年染料ノ保護獎勵ヲ爲スニ付テハ、補助金ヲ與ヘテ一ノ大會社ヲ成立セシメラレタコトガアル、染料ノ保護獎勵ヲ爲スニ付テハ、故ニ區別ヲサレタノデアルカ、私共ノ考ニ依リマスルト、染料ノ保護獎勵ヲ爲スニ付テハ、製鐵事業ノ方ハモウ一層緊急デアラウト思フ、シテ見レバ染料會社ニ保護ヲ與フルト同ジヤウナ保護ヲ、製鐵事業ニ與ヘラレマシタラバ、私ハ決シテ今日ノ經濟社會ニ於テ政府豫期ノ大會社ガ續々起ルコトヲ異トシナイデアル、必ズ起ルデアラウト思フ、更ニ此法律ノ如キモノニ致シマスルト、大會社ノ起ルト云フ事ハ甚ダ私ハ覺束ナイト思フ、却テ富豪ハ自分ノ資金ヲ投ジテ獨占ノ保護ニ浴スルト云フヤウナ虞レガアルハシナイカ、ソレヨリモウ一層一般的ニ及ブヤウナ染料會社ト同様、八朱ナラハ七、七朱ナラハ七朱ノ保護ヲスル方ガ實際製鐵事業ノ能力ヲ發揮スルニ效力ガアリハシナイカト思フ、何故區別ヲ立テラレタカト云フコトヲ同ヒタイ

○國務大臣仲小路廉君登壇 御質問ニ御答致シマス、御質問ノ趣意ハ、保護ノ宜イトシテ、ナゼ染料會社ニ保護シヤウナ直接金錢上ノ保護ヲシナイカ、保護ノ方法ニ付キマシテハ關稅ノ仰セニナルヤウナモノ其一方法アルカモ存シマス、併ナガラ或ハ生産物ニ對シテ保護ヲシタラウナモノ又說ヲ爲ス者モアル、是等種種ノ點ニ依テ色モ意見モ異ナルデアリマス、政府ニ於キマシテ實ハ各種ノ點モ考慮シテ見タデアリマス、結局直接ノ保護ハ寧ろ事業ヲ遂行セシムル上ニ於テ、餘リニ好イ方法デハナイ、寧ろ根本ニ於テハ矢張り自營自奮ノ途ニ依ルカ至當デアラウ、唯關係ガ國家ノ公益上ニ關係スルコトデアラカラ、出來ルダケ土地ノ公用徵收ヲ許ストカ、或ハ租稅免除等ノ途ニ依テ成立セシメルコトニシテ置ク、保護ノ方法ニ付キマシテハ定メシ種々ノ御意見モアラウト存シマス、政府ニ於キマシテモ、各種ノ要點ヲ考慮シマシタ上ニ於テ、今日取り

マシタ此方法ガ弊ガ無クシテ實效ヲ舉グルニ宜イト存シタ次第デアリマス

○高見之通君 我ハ農商務大臣ニ對シテ少シク說明ヲ承ハリタイコトガアリマス、ウレハ唯今中村君ニ對スル御辯明ニ依リマスルト云フコト、三萬五千噸ニ限ツタ云フ一以上ニ限ル理由ハ將來ノ一般ノ政策ノ上カラ見テ必要ナリト云フヤウナ御答辯デアタト思ヒマス、ウレ以下ノモノデ今日ノ寧ろ保護シテ宜イト思フヤウナモノハ澤山無カラウ、是ニ付テハ私ハ一ノ根據ヲ持テ居ルデアリマス、之ヲ今マデ枝光ノ製鐵所ニ持ッテ行キマシタケレドモ、磁鐵礦ノ精鍊ノ機械ニ掛カラナイデアリマス、サウシテ鐵山ハアルケレドモ精鍊ハ出來ナイ、而シテ精鍊所ヲ起スト云フコトニ付キマシテハ、多大ノ費用ヲ要スルト云フコト、吾モ地方ニ磁鐵礦ヲ持ッテ居ル者ハ、恨ヲ吞デ今日マテ其事業ヲ起ス途ガ無カッタデアル、然ルニ昨年暮秋山海軍少將ガ海外ヨリ歸ッテ御出ニナツテ、電氣精鍊デアルト云フ簡易ナル資本ヲ以テ、サウシテ磁鐵礦ガ精鍊出來ルノミナラズ、其他ノ惡イ鐵デモ尙精鍊ガ出來ルト云フコトヲ御話ニナツテ、此事ニ付キマシテハ私等ノ郷里ノ富山縣於キマシテモ、其爲ニ精鍊所ガ一二箇所出來ル設備ガ出來テ居ルデアリマス、現在ヤリツ、アマス、ウレハ一噸ニ對シテ約二千基ノ電力ヲ要スル、故ニ工場ハ非常ニ小サイノデアリマスガ、電力ハ相當ノ設備ヲ要スルト云フコト多少ノ困難ヲ極メテ居リマスケレドモ、電力サハ供給スレバ精鍊ニ於テハ極ク安イ設備ヲ以テ出來ルト云フ狀態ニナツテ居ルノ御座イマス、現在ヤリツ居ル者デモ約日々五噸若クハ八噸ノ生産高ヲ以テ進メテ行クト云フヤウナ考デ、現營業者ハヤリツ居ルデアリマス、而シテ今マデハ多大ノ生産ガナケレバ、製鐵ノ如キハ到底引合ハナイモノデアルト云フヤウナコトデアッタケレドモ、今日電氣精鍊デ以テヤリマスレバ、僅カノ噸數デモ尙詰リ算盤ガ持テルト云フヤウナ狀態ニナルデアリマス、此事情ハ農商務當局者ニ於ケレマシテモ、能ク御存ジノコトナリト私ハ信ジマス、若シ能ク御存ジデアツテ、單ニ三萬五千噸以上ノモノノミヲ御保護獎勵ナサル御精神デアリマスナラバ、今折角起ラントスル小事業ヲ壓迫サレルノ御意思デアリマスガ、其邊ヲ一寸承リタイ

○國務大臣仲小路廉君登壇 高見君ノ御質問ニ御答致シマス、御質問ノ趣意ハ私ハ能ク了解シテ居リマス、電氣ノ力ニ依リマシテ精鍊事業ニ從事致シマス、是ハ普通通石炭ヲ用井テノ精鍊事業ト其趣ヲ異ニスルコトハ能ク了解シテ居リマス、唯今同此製鐵獎勵法ヲ制定致シマシテ、三萬五千噸以上ノ工場ヲ保護スルト申シマシタ趣意ハ、先刻來度々申シタ所デアリマス、敢テ之ニ依テ小工業者ヲ壓迫スルト申ス趣意ハ、少シモナイノデアリマス、唯大體國家ノ必要ノ上ヨリ考ヘマシテ、相當ニ規模ノ大ニシテ計畫ノ大ナル工業ノ起ラムコトヲ望ム趣意デアリマス、尙製鐵ノ種類ニ依リマシテ、種々アル中ニモ低燐ノ銑鐵製造事業ニ付キマシテハ、三萬五千噸以上ト云フハバシシテ、種々アル五百噸以上ト云フコトトナツテ居リマス、何レ是等ノ事柄ト尙詳細ニ互リマシテ說明ヲ致シマスル方ガ却テ要領ヲ得マサルト存シマス、今日ハ簡單ニ一言……

○議長(大岡育造君) 日程第二十八號、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

○議長(大岡育造君) 第二十八 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○議長(大岡育造君) 本議案ヲ付託スベキ委員十八名議長ノ指名アラムコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第二十九、戰時海上再保險法案ノ第一讀會ヲ開キマス——農商務大臣

第二十九 戰時海上再保險法案(政府提出) 第一讀會

戰時海上再保險法案

第一條 政府ハ保險業者カ海上保險契約ニ依リ戰爭ニ因リテ生スルコトアルヘキ損害ノ填補ヲ約シタル場合ニ於テ其ノ損害ノ填補ニ付本法ニ依リ再保險ヲ爲スコトヲ得

前項ノ再保險ハ日本ノ保險業者又ハ外國保險業者ノ日本ニ設ケタル支店、事務所若ハ代理店カ主務官廳ノ定ムル海上保險料率以下ニ於テ爲シタル

第一次ノ元受保險契約ニ付テノミ之ヲ爲ス
元受保險契約カ豫定保險ノ方法ニ依リタルモノナルトキハ海上保險料率ニ關シテハ保險ノ各目的ニ付船舶出港ノ時ニ於テ契約ヲ爲シタルモノト看做シ前項ノ規定ヲ適用ス

第二條 再保險ノ目的ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス
一 日本ノ船舶ヲ有スル船舶
二 日本ヨリ輸出シ若ハ之ニ輸入スル積荷又ハ前號ニ掲グル船舶ニ搭載スル積荷

第三條 主務官廳必要ト認ムルトキハ命令ヲ以テ再保險ノ範圍ヲ制限スルコトヲ得

第四條 保險業者カ本法及本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ船舶出港前再保險ノ申込ヲ發シタルトキハ政府ハ之ヲ承諾シタルモノト看做ス
再保險ノ申込ハ其ノ申込ヲ發シタル日ノ午後十二時ニ之ヲ發シタルモノト推定ス再保險ノ申込書ニハ申込ヲ發シタル日ヲ記載スヘシ

第五條 再保險金額カ命令ニ依リテ政府ノ引受クヘキ保險金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過シタル部分ニ付テハ再保險ハ無効トス
同一ノ目的ニ付同時ニ數箇ノ再保險ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ保險金額カ前項ノ保險金額ヲ超過スルトキハ各保險業者ニ對シテ引受クル金額ハ其ノ各自ノ保險金額ノ割合ニ依ル

第六條 再保險料再保險金額ノ支拂及豫定保險ノ方法ニ依リ再保險ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 再保險ニ付テハ商法中保險ニ關スル規定ヲ準用ス但シ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第八條 船舶ニ付政府ノ引受クヘキ保險金額ヲ査定セシムル爲戰時海上再保險審査會ヲ置ク戰時海上再保險審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 保險業者若ハ船舶所有者又ハ其ノ法定代理人代表者若ハ從業者左ニ掲グル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テハ保險業者又ハ船舶所有者若ハ從業者以上五千圓以下ノ過料ニ處ス
一 再保險ノ目的タル要件ヲ具備セサルニ拘ラス惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ之ヲ具備シタルモノトシテ再保險ノ申込ヲ爲シタルトキ
二 第四條ノ再保險ノ申込書ニ虛偽ノ日附ヲ記載シテ之ヲ發シタルトキ
三 戰時海上再保險審査會ニ對シ不正ノ文書ヲ提出シ又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキ

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

戰時海上保險補償法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前ニ成立シタル保險契約ニシテ本法施行後五日迄ニ保險業者ノ責任ヲ生シタルモノニ付テハ仍戰時海上保險補償法ニ依リ其ノ保險契約ニハ本法ヲ適用セス

(國務大臣仲小路廉君登壇)

○國務大臣(仲小路廉君) 本案提出ノ理由ヲ簡單ニ申上ゲマス、戰時海上保險ニ付キマシテハ開戰ノ初メニ補償法アル法律ガ出テ實行シテ參アタシアリマス、爾來實行上ノ實驗ニ徴シマシテ、其結果ノ上ヨリ考ヘマシテ是ハ得策デナイト存ズルノデ、尙一般戰局ノ狀態モ餘程擴大ヲ致シマシテ、當時ノ情勢トハ餘程趣ヲ異ニ致シマシタ今日デアリマス、此際海上保險ノ再保險ニ付キマシテハ、茲ニ從前ノ法律ヲ改メマシテ、一般海上運輸業者ノ爲ニモ、亦我海外貿易ノ安定ヲ得マスル點ニ付キマシテモ、再保險ノミハ之ヲ官營ニ致スコトヲ時宜ニ適スル方法ト存ジタデアリマス、此等ノ趣意ニ依リマシテ此處ニ海上保險法ニ對スル戰時ノ規定ヲ提案致シタ次第デアリマス、何卒御審査ノ上御協賛アラント希望致シマス
○議長(大岡育造君) 日程第二十、右讀案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致シマス

第三十 右讀案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君 本案ハ九名ノ委員、議長指名アラント望ミマス

○議長(大岡育造君) 恆松君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ異議ナシト呼ブ者アリ)

○議長(大岡育造君) 異議ナシト認メマス、依テ恆松君動議ノ如ク決シマシタ——日程第三十一、造船獎勵金下付停止ニ關スル法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——逕信大臣

第三十一 造船獎勵金下付停止ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

造船獎勵金下付停止ニ關スル法律案

第一條 造船獎勵法ニ依リ造船獎勵金ノ下付ハ當分ノ内ニ之ヲ停止ス其ノ解除ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ規定ハ日本船舶ヲ所有シ得サル者ノ注文ニ依リ製造スル船舶ヲ除クノ外本法施行ノ日迄ニ認許證書ノ交付ヲ受ケテ大正七年三月三十一日迄ニ竣工シタル船舶ニ付テハ之ヲ適用セス

前項ノ規定ニ該當セサル船舶ニ對シテハ第一項ノ停止ノ解除アリタル後雖造船獎勵金ヲ下付セス

第二條 前條第二項ノ規定ニ依リ造船獎勵金ノ下付ヲ受ケ又ハ受クヘキ船舶ハ前條第一項ノ停止ノ解除アリタル後ニ非サレハ之ヲ日本船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡スコトヲ得ス但シ逕信大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ造船獎勵金ニ相當スル金額ヲ納付スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ造船業者ヨリ第一項ノ船舶ノ引渡ヲ受クル權利ノ讓渡ニ付之ヲ準用ス

第三條 遞信大臣ノ許可ヲ受ケシテ第一條第一項ノ停止ノ解除前條第一項ノ船舶又ハ其ノ引渡ヲ受クル權利ヲ日本船舶ヲ所有シ得サル者ニ讓渡シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ造船獎勵金ニ相當スル金額ヲ納付セシム

第四條 前二條ノ納付金ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

造船獎勵法第八條中十年間ヲ十五年間ニ改ム
(國務大臣男爵田健治郎君登壇)

○國務大臣(男爵田健治郎君) 本案提出ノ理由ノ要領ヲ申上ゲマセウ、現行造船獎勵法ハ明治二十九年ニ制定セラレマシテ、爾來二十餘年間ノ實行上ノ經驗ニ依リマシテ、相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ルデアリマス、即チ以前ニアリマシテハ、我造船業ハ甚ダ振ハス狀態デアリマシタガ、此法律ノ結果トシテ相當ニ造船事業ガ發達ヲ致シタノデアリマス、然ルニ此度ノ歐洲戰爭ノ結果トシテ相當ニ造船事業ガ發達ヲ致シタノデアリマス、抑留トカ云フヤウナ種々ノ原因ニ依リマシテ、普通ノ航運事業ニ從事スルコトノ出來ナリ船ガ多數ニ生ジタデアリマス、大體ヲ申上ゲマシタル云フト世界ノ船舶數ハ戰前ニ在リマシテハ約四千六百萬噸位ナモノデアッタト存ジマス、ソレガ今日ニ於キマシテハ是ガ半分以上ニ減テ居リマス、殘ラズ沈ンダト云フ譯デアリマセウガ、詰リ軍事徵用ナドニセラレマシタ爲ニ、普通航海事業ニ從事シテ居ルモノガ二千二百萬噸位ナモノニナツテ居ルノデアリマス、ソレガ故ニ非常ニ世界ノ船舶ニ不足ヲ告ゲマシテ、是ハモウ我國ハ申スニ及バズ歐羅巴、亞米利加、世界ノ船舶ニ不足ヲ告ゲマシタガ故ニ、此刺戟ニ依テ造船事業ガ急激ナル發達ヲ來スノハ固ヨリ恠シムニ足ラヌデアリマス、今其大數ヲ申上ゲマシタル云フト、戰前十箇年ニ於キマシテ平均シテ見マシタル、此造船獎勵金ヲ受ケタル數ハ一箇年ニ約三萬五千噸程ノモノデアリマシタ、然ルニソレガ五箇年ニハ一躍シテ約十四萬噸位ニ上ツタデアリマス、本年度ニ於キマシテハ現ニ製造中若クハ計畫中ノモノヲ殘ラズ算ヘテ見ルト、約九十五萬噸程ノ大數ニ上ル譯ニ成ルデアリマス、此結果トシマシテ此獎勵金支出ガ非常ニ急激ナル増加ヲ來スノハ當然デアリマシタ、即チ大正二年度ニ於キマシテハ九十九萬圓程支出シテ居リマシタデアリマス、ソレガ三年度デハ百八十二萬圓程ニナリマシタ、所ガ昨五年度ニ至リマシタル云フト一躍シテ二百七萬圓餘ニ上リ、本年度ニ於キマシテハ此度追加豫算ヲ以テ要求致シマシタル金額ヲ合セマシテ、豫算上ニ於テハ百五十三萬圓餘ニ上ルデアリマス、是ハ本年度中ニ凡ソ出來ルト云フモノヲ見込シテ御坐イマス、若シ今計畫シテ居リマシタルモノ、即チ九十五萬噸程ノモノニ對シテ殘ラズ此獎勵金ヲ與ヘルト云フコトニシマシタナラバ、如何様ナ金高ニナルカト申セバ、其金高ハ二千萬圓以上ニ相成ルデアリマス、此法律ノ結果ニ依テ支出致シマス金額ガ斯ク上リマシタルコトモ、是ガ事實ノ上ニ於テ有效デアッタナラバ、必要デアッタナラバ寧ろ得ヌカモ知レマセウガ、今日ニ於キマシテハ殆ド此獎勵ノ必要ガナイト云フ事實ガ有ルデアリマス、即チ皆サンモ御承知ノ通りデアリマシテ、船舶ノ不足ト云フコトハ忽チ船價ノ暴騰ト云フコトニ相成ツタデアリマス、御坐イマセウ

ラ、今日ニ於キマシテハ一噸二百圓カニ二百五十圓デ製造スルト云フト、ソレガ四百圓ニモ五百圓ニモ羽根ガ飛ブ如クニ賣行クト云フコトデアリマス、一噸ニ付テ二十圓ヤ二十二圓ノ補助金ノ有無ハ全ク關係ガナイデアリマス、今日ノ獎勵金ハ殆ド死金ヲ使テ居ルト云フ有様デアリマス、ソレ故ニ此獎勵金ノ支給ハ當分中止スルト云フノガ此法律ノ精神ニ御坐イマス、是ヲ廢止セズシテ中止スル理由ハ何處ニアルカ、今日ノ如ク船舶ノ價ガ暴騰シタル云コトハ決シテ是ハ長ク續クモノデアナイデアリマス、一旦平和ガ克復シタル後ニ當ツテ、歐米邊リノ造船界工業界ノ狀態ガ平時ニ復シタナラバ、又製鐵事業、造船事業ガ大ニ起ツテ來テ我國ノ造船事業ト大競争ノ場合ガアルト見ニナリマセウ、其場合ニ於テハ其原料ヲ主トシテ歐米ニ求メ、アル所ノ日本ノ造船事業者ニ對シテハ、到底保護獎勵ガナクニ競争上ニ打勝ツコトガ出來ナイデアリマス、即チ戰爭以前ノ狀態ニ復スル場合ニ於テハ、ドウシテモ此獎勵法ハ矢張り繼續シナクニ造船事業ハ忽チ廢滅ヲ來スト云フノ虞ガ御坐イマス、ソレ故ニ此停止ハ當分ノ中停止、即チ此狀態ノ繼續シテ居ル間ハ停止シテ、此狀態ガ全ク了ツタ後ニ臨ンデ而シテ此獎勵法スルニ非ザレバ、造船界ハ非常ナル打撃ヲ受ルト云フ場合ニ至ツタナラバ、之ヲ再ビ復活シヤウト云フ譯デアリマス、所ガ此期限ガ大正八年テ切レルコトニナツテ居リマス、デアリマス、大正八年ト申セバ最早中一年置イテ先キノコトデアリマス、ラ、是ハ餘リ短カウ御坐イマス、更ニ五年ヲ延バシテ大正十三年マテ延期スルト云フ積リデゴザイマス、此場合ニ至ツタナラバ全ク終熄ガ出來ルデアラウト存ジマス、ハ、申スマデモナク此造船事業ノ興廢ハ一ニ原料タル製鐵ノ事業興廢ニ伴フデアリマス、唯今テハ原料ハ殆ド外國品ヲ仰イノ居リマシタガ、運送賃輸入稅負擔ノ重イモノヲ擔イテ居リマシタガ、併シ日本ノ此製鐵事業ガ段々發達ヲ致シテ來テ原料ノ供給ガ、外國人ガヤルノト同シ程ノ價ヲ得ラ、ト云フ場合ニナツタナラバ、此獎勵ハ全ク無用ニ屬スル時ガ來ヤウト存ジマス、ソレハ大正十二年頃ニ至レバ多分、ソコニ達スルデアラウト云フ考テ、年期ヲ十二年ト致シタル譯デアリマス、(明瞭)ト呼フ者アリ、是ガ大體デゴザイマス、唯此一條以下ニアリマス、現在認可證書ノ渡シデアリマス、所ノ經過法ニ向ツテ、少シク工合ガシテ御坐イマス、此邊ノ所ハ尙委員會ニ於テ十分申上ゲルコトニ致シタイト存ジマス、何卒御贊成ヲ願ヒマス

○議長(大岡育造君) 日程第三十二、右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉ヲ議題ト致マス

第三十二 右議案ノ審查ヲ付託スベキ委員ノ選舉
○恆松隆慶君 本案ハ非常ニ明瞭ニ分リマシタガ免三角政府案デ御坐イマシテ、九名ノ委員ヲ議長ノ指名アラムコトヲ望ミマス

○議長(大岡育造君) 恆松君勸議ニ御異議アリマセウカ
(異議ナシ異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(大岡育造君) 恆松君勸議ノ通り決シマシタ、日程第三十二、市町村教育費國庫補助ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス——元田肇君

第三十三 市町村教育費國庫補助ニ關スル建議案(原敬君外七名提出)

市町村教育費國庫補助ニ關スル建議案
市町村教育費國庫補助ニ關スル建議案
市町村教育費ハ年々増加シテ六千萬圓ノ巨額ニ上リ市町村總額經費ノ四割ヲ

超エ中ニハ七割以上ヲ占ムルモ、少カラス而シテ就學兒童ハ毎年二十萬乃至二十五萬人ヲ増加スルヲ以テ市町村ノ教育費ハ之ト比例シテ益多キヲ加フルノ勢ナリ之カ爲ニ地方ノ衰微ヲ招キ自治團體ノ發達ヲ妨クルノ兆候歷々見ルヘシ翻テ世界列強ノ實例ヲ見ルニ小學校教育費ハ國庫ニ於テ其ノ半ヲ支辨スルモノ多ク我カ國ノ如ク其ノ全部ヲ市町村ニ負擔セシムルモノ一モアルコトナシ政府ハ宜シク義務教育費ヲ補助シ市町村ノ負擔ヲ輕減スルノ方法ヲ講スヘシ

(元田肇君登壇)

(拍手起ル)

○元田肇君 諸君、本員ハ市町村教育費國庫補助ニ關スル建議案、提出ノ理由ヲ說明スベク登壇致シタリデアリマス、其理由ヲ寧ろ略致シマシテ僅ニ述ベルコトニ致シマシテ、本文ノ建議案ヲ第一ニ朗讀致シマス、市町村教育費國庫補助ニ關スル建議案市町村ノ教育費ハ年々増加シテ六千萬圓ノ巨額ニ上リ、市町村總額經費ノ四割ヲ超エ中ニハ七割以上ヲ占ムルモノ少カラス、而シテ就學兒童ハ毎年二十萬乃至二十五萬人ヲ増加スルヲ以テ市町村ノ教育費ハ之ト比例シテ益多キヲ加フルノ勢ナリ之カ爲ニ地方ノ衰微ヲ招キ自治團體ノ發達ヲ妨クルノ兆候歷々見ルヘシ、翻テ世界列強ノ實例ヲ見ルニ小學校教育費ハ國庫ニ於テ其ノ半ヲ支辨スルモノ多ク我カ國ノ如ク其ノ全部ヲ市町村ニ負擔セシムルモノ一モアルコトナシ、政府ハ宜シク義務教育費ヲ補助シ市町村ノ負擔ヲ輕減スルノ方法ヲ講スヘシ右建議案ニ之ガ提出致シマシタリ建議案ノ案文デアリマス、而シテ本案ノ提出ノ理由ハ既ニ本文ニ明瞭致シテ居リマス、本員等多年義務教育費國庫補助ニ關スルコトヲ提唱致シテ居タリデアリマス、今日ハ本院ニ此問題ニ付テ案ガ二ツ出テ居ルコト存ジマス、孰レニ於キマシテモ、此趣旨ニ付テ反對ノ御方ハ無クアル、又今ニ於テ續々其必要ヲ說明スルマデモナイコト、存ジマスカラシテ、是ヨリ種々ナルコトハ申述べマセヌガ、唯ダ建議案トシテ之ヲ提出致シタリ理由ヲ一言致シテ置キマス、他ノ議員諸君ヨリ法律案トシテ提出シタノモ御坐イマス、本員等ノ考テハ、此ノ如キ問題ハ建議案ト致シマシテ、當局政府ニ原案ヲ提出サセル方法ヲ執ルコトヲ以テ適當ナリト存ジマス、建議案ニ致シタリ次第デアリマス、唯一言政府ニ向テ申述べ置キマス、本案ヲ提出シタル所以ハ、決シテ一朝一夕ノ考慮ヨリ出デタモノデハナイデアリマス、當局者ニ於テハ此建議ニ對シテ相當處置ヲ速ニ執ラレムコトヲ切ニ請求シテ置キマス、宜シク御贊成ヲ願ヒマス

(拍手起ル)

○恆松隆慶君 本案ハ吾々政友會員ノ熱誠ナル建議案ヲ御坐イマス、實ハ速決ニナデモ宜イ程ノ案デ御坐イマス、免角此問題ヲ委員ニ付託シテ、政府當局者ト十分折衝審議ヲ盡シ、以テ實效ヲ擧ゲタイト思ヒマス、故ニ十八名ノ委員ニ付託セラレ、其委員ノ議長指名ニナラムコトヲ望ミマス

(異議ナシ)

○議長(大岡育造君) 恆松君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)

○議長(大岡育造君) 御異議ナシト呼フ者アリ

(異議ナシ)

○議長(大岡育造君) 恆松君ノ動議ノ如ク決シマシタ、日程第三十四、義務教育費國庫補助ニ關スル建議案ヲ議題ト致シマス、西村丹治郎君

(異議ナシ)

○議長(大岡育造君) 義務教育費國庫補助ニ關スル建議案(西村丹治郎君)

ノ負擔ヲシムルヲ以テ地方財政ノ困難ハ逐年甚シキヲ加ヘ今ヤ殆ト其ノ苛重ニ堪ヘサルニ至レリ政府ハ須ラク相當ノ財源ヲ發見シ次期議會迄ニ義務教育費國庫補助ニ關スル法律案ヲ提出セラレムコトヲ望ム

(西村丹治郎君登壇)

(拍手起ル)

○西村丹治郎君 教育費國庫支辨ニ關スル事柄ハ、今日ニ於テハ最早國論ノ一定セル要求アル、國民ノ聲デアルト申シテモ宜シイデアリマス、コレ故ニ私ガ此處ニ上ッテ最早此案ノ理由ヲ說明スル必要ハナイト言ッテモ宜イ位デアラウト思ヒマス、(其通り)ト呼フ者アリ併シナガラ此處ヘ上リマシタガ故ニ、極ク簡單ニ(簡單々々)ト呼フ者アリ笑聲起ル、其提案ノ理由ヲ說明致サウト思ヒマス、第一ハ町村ニ於ケル目下ノ財政狀態ト云フモノハ、洵ニ殆ト其困難ノ極點ニ達シテ居ルト申シテモ差支ハ無イデアラウト思フデアリマス、現ニ制限外課稅ヲ爲シテ居ラヌ町村ハ、恐ラク指ヲ屈スル位シカ無イデアラウト思フ、殆ト總テ町村ニ於テハ大ナル制限外ノ課稅マデシテ、漸ク其村ノ財政ヲ維持シテ居ルコト有様、サウシテ義務教育費ノ負擔ト云フモノハ其内少クテ二割、多キハ七割位町村財政ノ大部分ヲ此教育費ヲ占メテ居ル有様デアリマス、コレ故ニ國庫ヨリシテ此幾部ヲ補助シ、若クハ更ニ進ンデ其全部ヲ支出スルコトニナリマス、コレ故ニ茲ニ町村ノ財政ト云フモノハ非常ニ餘裕ヲ生ジテ來ルコトガ出來ラウト思フデアリマス、コレカラ一ハ教育改善ノ意味カラ吾々ハ此案ヲ提出シタルデアリマス、又今日表面カラ申シマスレバ總テ統一主義總テ劃一主義ニ出來テ居ルヤウデアリマス、コレモガ、貧弱ナル町村ト豐富ナル町村トノ間教育ノ内容ニ立入ッテ見マス、コレモ、殆ト餘程ノ差ガアルト申シテ宜シイ狀態ニナッテ居ルデアリマス、コレ故ニ此教育ノ改善ヲ爲スト云フ上カラ申シマシテモ、是非共國庫補助ノ制度ヲ立テネバナラヌト思フデアリマス、(モウ分リマシタ)ト呼フ者アリコレカラ次ハ町村開發ノ上カラ先ニ申シマシタ、如ク、教育費ト云フモノハ、殆ト町村ノ負擔ノ大部分ヲ占メテ居ルデアリマス、他ノ町村自治體ノ事業トシテ土木事業若クハ勸業ノ事業、是等ニ向ッテハ殆ト手足モ出ス事ガ出來ナイト云フ今日ノ狀態デアリマス、(ヒヤ、其通り)ト呼フ者アリコレ故ニ町村ノ財政ノ基礎ヲ鞏固ニシ、町村自治體ニ於ケル事業ノ開發國庫ノ培養ヲ爲サント欲シタラバ、是非共茲ニ是等ノ方面ニ使フ金ノ餘地ヲ存シテヤルト云フコトニシナケレバナラヌト思フデアリマス、今申シマシタ如ク、一ハ町村ノ財政ノ急ヲ救ハナケレバナラヌト云フ上ニ、一ハ教育上ノ改善ノ上ニ、第三ハ町村ニ於ケル開發、國庫培養ノ上カラ是非共此義務教育費ハ國庫ノ補助、更ニ進ンデハ中央ノ財政上ノ之ヲ許スナラバ、全部國庫ニ於テ負擔ヲサセタイ、斯ウ云フノガ吾々同志ノ意見デアリマス、ドウカ滿堂ノ諸君御贊成アラント望ミマス

(拍手起ル)

○恆松隆慶君 本建議案ハ前ノ建議案ト同一委員ニ付託セラレムコトヲ望ミマス

(異議ナシ)

○議長(大岡育造君) 恆松君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシ)

○議長(大岡育造君) 御異議ナシト認メマス、依テ本建議案ハ前建議案ト同一委員ニ付託スルコトニ決シマシタ、日程第三十五、治水事業速成ニ關スル建議案

(異議ナシ)

○議長(大岡育造君) 藤挂次君

第三十五 治水事業速成ニ關スル建議案(齋藤珪次君外十名提出)

治水事業速成ニ關スル建議案

治水事業速成ニ關スル建議

我カ國ニ於テ年々頻出スル水害ノ慘狀ニ鑑ミ速ニ治水事業ヲ完成スルノ極デ急務ナルヲ認ムニ定メラレタル治水事業第一期計畫ハ財政上ノ都合ニ依リ繼續費ノ改定ヲ見タルノ結果事業完成ノ時期甚シク遲延スルニ至レリ然レトモ今ヤ財政經濟ノ狀態一變シタルヲ以テ治水事業所要資金ノ調達取テ困難ニ非サルヤ明ナリ故ニ政府ハ適當ノ方法ヲ講シ治水事業繼續費既定年割額ニ二百萬圓乃至五百萬圓ヲ増加シ以テ出來得ル限リ事業完成期間ヲ繰上ケ短縮スルノ案ヲ立テ之ヲ議會ニ提出スヘシ

右建議ス

(齋藤珪次君登壇)

(拍手起ル)

○齋藤珪次君 本建議案ノ提出理由ノ大要ヲ申上ゲマス、我ガ治水事業ハ御承知ノ如クニ、去ル四十二年ノ大水害ニ顧ミマシテ、時ノ當局ガ此治水ヲシテ全然國家ノ負擔ヲ増加シテ、サウシテ此大事業ヲ爲サウト云フコトノ計畫ヲ立デマシテ、同時ニ調査委員等ヲ設ケ、ソレノ機關ヲ通シテ此計畫ヲ定メタノデアリマス、而シテ其大要ハ全國ノ六十五箇川ノ大河ヲ國家ガ直轄スル而シテ第一期ト致シテ先ヅ以テ其關係大ナルモノ二十箇川ヲ十八箇年ニテ成效スル、其費額壹億七千參百萬圓ヲ以テ之ヲ完成スル、是ガ第一計畫デアリマシタ、然ル處ガ此事業著手即チ明治四十四年ニ著手シテ以來、今日マデ六箇年ノ經過ヲ經ル間ニ於テ、即チ事業年限三分ノ一ヲ經過スル間ニ於テ、此事業ガ如何ナル困難如何ナル事情ニ際會シタカト申シマスレバ、先ヅ以テ第一ニ山本内閣ノ時ニ於テ行政財政ノ整理ノ結果、已ムヲ得ズシテカラニ一時此十八箇年計畫ノ費用ヲ其費額ヲ中間延期セザルヲ得ナイニ至ッタ——中間延期ト申シマスハ——繰延ト申シマスハ將來ノ大計畫ニハ年限ニ變リハナイケレドモ、中間ノ間ダケ費用ノ繰延ヲ一時スル、サウシテ跡ハ埋メテ行ク、斯ウ云フ災厄ニ出遭ツタノデアアル、即チ中間費額繰延ノ災厄ニ遭ヒ、續イテ前大隈内閣ノ時代ニ於テハ、更ニ此治水ク爲メニ特別會計ヲ設ケテ、郵便貯金ノ如キ、或ハ其他ノ基金ノ如キヲ流用シテ此事業ヲ爲スベキ此便宜ナル特別會計ヲ廢サレテ仕舞ツテ、サウシテ加フルニ財政ノ結果トシテ、前ニハ費用ヲ中間延期テ居タモノ、繰延ベテ居タモノヲ大隈内閣ハ更ニ年限ヲ延マデニ、即チ年限繰延マデ之ヲ致シタノデアリマス、即チ斯ノ如キ災厄ニ遭ツタ我ガ治水事業ト云フモノハ、頗ル困難ノ場合ニ至ツタノデアリマス、而シテ此事業ハ顧ミテ如何デアアルカ、實ニ年々歲々水害ニ出遭ツテ、人畜ヲ害シ財產ヲ失フハ申スマデモナイ、ドウシテモ是ハ速成ヲ致サナケレバナラス、併ナガラ如何ニセン今日マデノ財政ハ之ヲ許サナカッタノデアアルガ、今日ハ如何デアアルカ、財政經濟ノ有様カラ見マシテ實ニ驚クベキ發達デアアル、即チ前内閣ガ郵便貯金ヲ如キ費用ニ使フコトハ往カスト云ツテ特別會計ヲ廢シマシタケレドモ、其後ニ於ケル郵便貯金ノ増加ノ如キ如何デアアル、昨年ノ郵便貯金一昨年ノ郵便貯金ニ較ベレバ、一年ニシテ七千六百幾萬圓ノ増加ト私ハ記憶シテ居ル、實ニ驚クベキ増加デアアル、之ヲ若シ斯ノ如ク特別會計ガ存シテ居テ使フナラバ、治水事業ハ誠ニ安全ニ進行ガ出來ルノデアアル、本年ニ至ツテモ郵便貯金ノ増加ハ著シキモノデアアル、之ヲ以テ一般ヲ知リ得ルノデ、一般財政經濟ノ此發展アルガ爲ニ、若シ必要ナコトデアレバ

此ノ財源ヲ取ルニ於テ決シテ今日ハ支ヘナイ、所謂電話事業ノ擴張ノ爲メニ、本日本議ニ上ツタ公債法案ノ如キ、電話ノ爲メニ一億圓以上ノ公債ヲ募集シ得ラル、今日、此國家民人ノ生命財產ニ關スル治水事業ノ爲ニハ、公債ノ如キ、其他借入金ノ如キ、容易ニ爲シ得ラル、ノデアアル故ニ、此際ニ於テ私共ハ治水事業ヲシテ年々少クモ五百萬圓カラノ年割額ヲ増加シテ、サウシテ此治水事業ヲ進行セシムルナラバ、大體ニ於テ十八箇年計畫タル元ノ年度、最初ニ決定シタル年度ヲ更ニ短縮シテ十五箇年マデニ縮少スルコトモ容易デアアルト確信ヲ致シテ居ル、今日ハ實ニ此時期ニ於テ最モ好機會ト存シマス、故ニ是ハ今日吾々ハ申サザルモ、政府ハ計畫致スデアラウト信シテ居タ、所ガ政府ハ何故カ荒川下流ノ年度繰上、及御物川、及最上川、此三川ノ繰上ハ今度ノ追加案ニ提出致シマシタガ、大體ニ於ケル治水計畫ノ繰上短縮ト云フモノニ就テハ、何等指ヲ染メテ居ラヌノデアアル、或ハ是ハ次ノ議會四十回議會ニ提出セラル、考トスレバ、私共何ヲカ言ハンデアアルガ、併ナガラ政府ガ提出シタルモノガ斯ク少數ノモノニ止マル以上ハ、是非共是ハ次ノ議會若クハ本會議ニ於テ大計畫ヲ定メテ、サウシテ提出致シテ貫ヒタイト云フガ吾々ノ希望デアアルノデアリマス、即チ今日ノ時期ハ全ク治水事業ヲ爲スニ付テ、其財源ハ財政計畫ノ上カラ餘リアルモノト信ジマスガ故ニ、是非之ヲ遂行致シタイト云フ趣意デ、本建議案ヲ提出致シタノデアリマス

○議長(大岡育造君) 恆松君改メテ九名デスカ

○恆松隆慶君 九名ニ致シマス

○議長(大岡育造君) 恆松君ノ動議ニ御異議ハアリマセスカ

○議長(大岡育造君) 御異議ガナイト認メマス、依テ恆松君ノ動議ノ如ク決シマス、此際御諮リ申ス事ガアリマス、第二部選出決算委員小林源藏君、第九部選出決算委員澤來太郎君、右辭任ノ申出ガアリマシタ、許可シテ御異議ハアリマセスカ

○議長(大岡育造君) 御異議ガ無ケレバ許可致シマス、第三部及第九部ノ諸君ハ、本會散會後補缺選舉ヲ行ハレ議長ハ居出アラシコトヲ望ミマス、此際報告ガアリマス

(書記朗讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

單科大學令發布ニ關スル建議案

提出者 八木 逸郎君

決議案

提出者 尾崎 行雄君 武富 時敏君 安達 謙藏君

河野 廣中君 箕浦 勝人君 島田 三郎君

仙石 貢君

○議長(大岡育造君) 次ノ日程ハ公報ヲ以テ御報告致シマス、本日ハ是ニテ散會

午後三時十三分散會